市原市姉崎台遺跡（第２地点）

２０２４

小　　川　　長　　二
市 原 市 教 育 委 員 会

市原市姉崎台（あねさきだい）遺跡（第２地点）

２０２４

小　　川　　長　　二
市 原 市 教 育 委 員 会

例言・凡例

1　本書は、千葉県市原市姉崎字台畑2922番地1・2923番地1に所在する姉崎台遺跡（第2地点）の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、宅地造成に伴い、小川長二氏の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　発掘調査は開発事業範囲2422.08㎡のうち、205.49㎡を対象とした本調査である。調査範囲は平成29年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した187㎡の確認調査の結果に基づく。

4　発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。

確認調査　平成29年 5 月22日～平成 29 年6月 14 日　担当　近藤敏・中野喬介

本調査　　令和 5 年 7 月 5 日～令和 5 年8月 9 日　担当　鈴木宏和

整理作業　令和 5 年 10 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日　担当　川上知哉

5　本書の執筆は川上知哉が行った。

6　姉崎台遺跡（第2地点）の調査コードはセ554（確認調査）・セ610（本調査）である。

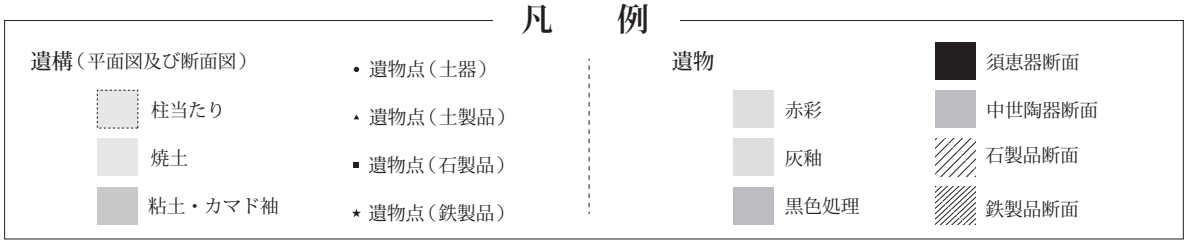
7　出土遺物と記録類は、市原市埋蔵文化財調査センター（千葉県市原市能満1489番）で収蔵・保管している。

8　図版2はAgisoft Metashape Professional（64bit）ver.1.5.2により作成した。

9　本書で示す北は座標北である。また、水準は海抜高を示す。

10　土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社による。

11　挿図におけるスクリーントーン・遺物表示及び土層説明の用例は下記による。



内容物の表記

ローム粒子	→	ロ粒
ロームブロック	→	ロブ
焼土粒子	→	焼粒
焼土ブロック	→	焼ブ
炭化物粒子	→	炭粒
炭化物ブロック	→	炭ブ
白色粘土粒子	→	白粘粒
白色粘土ブロック	→	白粘ブ

内容物の大きさ

粒	＝	5mm 未満
ブ	＝	5mm 以上

＊数字による記載は省略

12　第1図・第2図は国土地理院発行の数値地図25000（地図画像）を用いた。

13　本文土層断面図に示されている遺物の掲載番号については○数字で示した。

14　遺物写真図版の縮尺は、基本的に実測図に準じる。

本 文 目 次

1　調査に至る経緯 …… 1
2　遺跡周辺の環境 …… 1
3　調査の成果 …… 1
　（1）調査概要 …… 1
　（2）遺構と遺物 …… 4
　　竪穴建物跡 …… 4
　　掘立柱建物跡 …… 15
　　方墳周溝 …… 16
　　遺物集中土坑、その他土坑・ピット …… 21
　　遺跡一括取り上げ遺物 …… 22
4　遺構の変遷 …… 22
5　まとめ …… 23

挿 図 目 次

第 1 図　姉崎台遺跡（第 2 地点）及び周辺遺跡位置図 …… 2
第 2 図　姉崎台遺跡（第 2 地点）周辺地形図 …… 2
第 3 図　姉崎台遺跡（第 2 地点）全体図 …… 3
第 4 図　SI01 遺構実測図（1）、SI05 遺構実測図（1）、SK08 遺構実測図 …… 5
第 5 図　SI01 遺構実測図（2） …… 6
第 6 図　SI05 遺構実測図（2） …… 7
第 7 図　SI01 遺物実測図 …… 8
第 8 図　SI02・SK07 遺構実測図、SI03 遺構実測図（1） …… 10
第 9 図　SI03 遺構実測図（2） …… 11
第 10 図　SI02 遺物実測図 …… 12
第 11 図　SI03 遺物実測図 …… 13
第 12 図　SI04・SK05・SK06・Pit01 遺構実測図、SI04・SK06・Pit01 遺物実測図 …… 14
第 13 図　SB01・SK04 遺構実測図 …… 16
第 14 図　SB02 遺構実測図、SK02・SK09・SX01 遺構実測図（1） …… 17
第 15 図　SK02・SK09・SX01 遺構実測図（2）、SB02・SX01 遺物実測図 …… 18
第 16 図　SM01 遺構実測図、SM01 遺物実測図（1） …… 19
第 17 図　SM01 遺物実測図（2） …… 20
第 18 図　SK01・SK03・Pit02 遺構実測図、SK01 遺物実測図 …… 22
第 19 図　遺跡一括取り上げ 遺物実測図 …… 23

表 目 次

第 1 ～ 4 表　出土遺物観察表 …… 25～28
第 5 表　非掲載遺物一覧表 …… 29・30

図 版 目 次

図版 1　姉崎台遺跡周辺航空写真
図版 2　調査区全体　3 次元データ
図版 3　遺構　SI01
図版 4　遺構　SI01　SI02　SI03
図版 5　遺構　SI03　SI04
図版 6　遺構　SI03　SI04　SI05　SB02　Pit01
図版 7　遺構　SB01　SB02
図版 8　遺構　SB02
図版 9　遺構　SM01
図版 10　遺構　SK01　SK02　SK03　SK04　SK05　SK06　SX01　Pit02
図版 11　遺構　SK07　SK08　SK09　Pit01　調査区
図版 12　遺物　SI01　SI02　SM01
図版 13　遺物　SM01　SX01　遺跡一括
図版 14　遺物　SI01　SI02
図版 15　遺物　SI03　SI04
図版 16　遺物　SB02　SK01　SK06　SM01　SX01　Pit01　遺跡一括

1　調査に至る経緯

今回の発掘調査は千葉県市原市姉崎字台畑2922番地1・2923番地1における宅地造成に伴い実施したものである。小川長二・小川美千枝は宅地造成に先立ち、平成29年4月10日付けで文化財保護法第93条に基づく届出を提出し、これを受けた市教委ふるさと文化課は試掘を実施した。この結果、遺構・遺物を確認し、平成29年5月15日付けで県教委へ進達した（市教文第247号）。届出と試掘結果を受けた県教委は平成29年5月18日付けで事業地内における発掘調査を指示する文書を事業者に通知した（教文第3号の212）。事業者の計画実施の方針に変更はなかったため、事業範囲1,873.39㎡を対象に、市教委が国庫補助事業（平成29年度市内遺跡発掘調査事業）として確認調査を行った（平成29年5月22日～平成29年6月14日）。確認調査結果に基づき、事業範囲の大部分が協議範囲となった。事業者は令和4年9月12日付けで再度、事業範囲2,422.08㎡を宅地造成する計画で、文化財保護法第93条に基づく届出を提出した。平成29年度確認調査の結果を照合しながら事業者と市教委及び県教委が協議を重ねたところ、保存困難な埋蔵文化財について、事業者負担による記録保存の措置をとることとなり、205.49㎡を対象に本調査を実施することとなった。

2　遺跡周辺の環境（第1・2図）

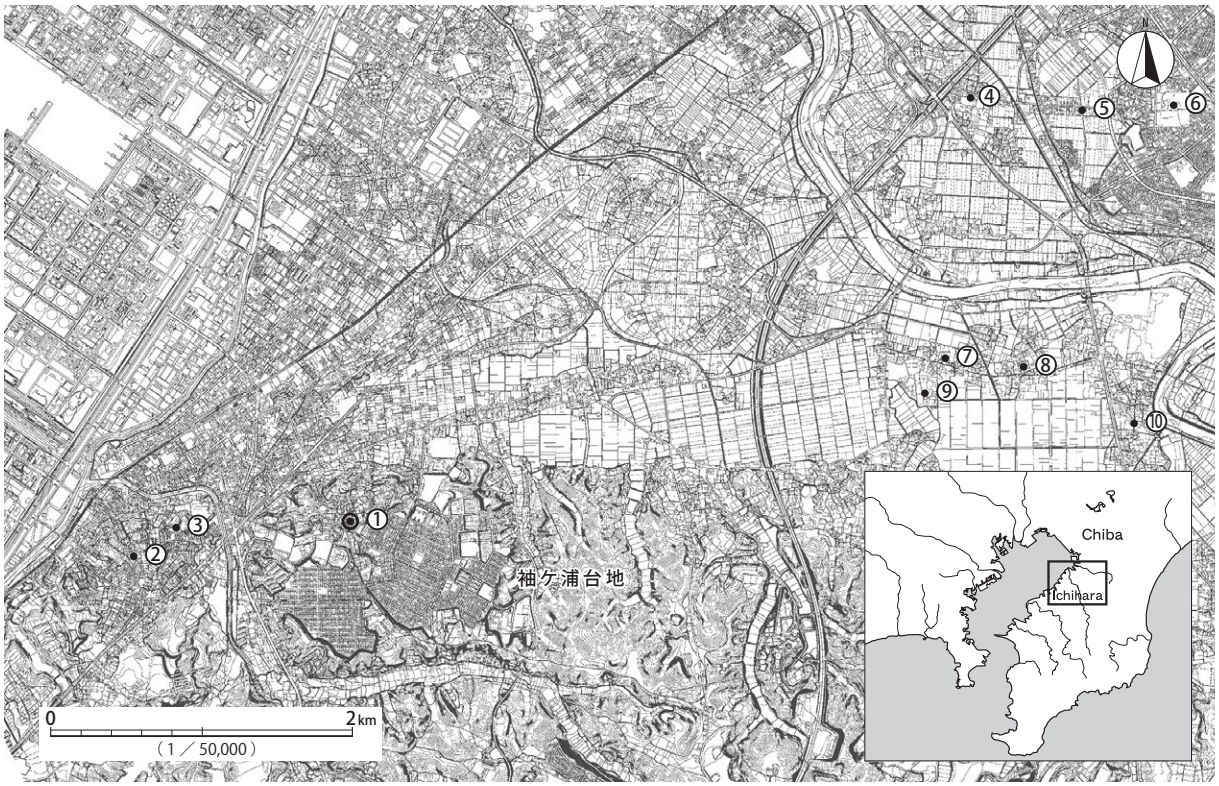
姉崎台遺跡は式内社の姉埼神社の所在する姉崎台地区のほぼ全域を範囲とし、今回の調査区は海岸平野を見下ろす姉崎台地北辺部、標高37m前後の東西方向に長いT字形横線部状の台地平坦面に位置している。台地平坦部は姉崎古墳群の範囲内にあり、西側に釈迦山古墳・姉崎山王山古墳、東側に姉崎天神山古墳、南側に鶴窪古墳、北東約700mの砂堆上に姉崎二子塚古墳が位置しており、古墳時代前期から後期における各期の最大規模古墳が集中している。また調査区東側隣接地には鬼子母神貝塚が環状に展開しており平成29年度調査では遺構から縄文時代早期の貝殻条痕文土器片、加曽利B式を中心とした縄文時代後期の深鉢形土器片が出土している（齊木2019）。加えて調査区北東約300mには姉崎東原遺跡が位置し、弥生時代中期～古墳時代初頭の竪穴建物跡や古墳時代前期の前方後方墳が確認されている（高橋1990・1993）。

調査区南西20m地点では昭和45年に千葉県教育委員会によって発掘調査が行われており（第1地点）、南北22.6m、東西最大幅約7.4m、最深約1.4mの不整形で船底形を呈した「特殊巨大遺構」と呼ばれる掘り込みや、カマドを付随した竪穴建物跡1棟が検出され、古墳時代後期土師器・手捏土器などが出土している（千葉県教育委員会1970）。また平成29年には今回の調査区で確認調査が実施され、弥生時代後期の所産と推測される竪穴建物跡や方墳周溝、古墳時代後期以降の竪穴建物跡や古墳時代に属すると考えられる掘立柱建物跡が検出されている。遺物は縄文時代後期の土器（加曽利B式～安行式）、弥生時代後期の土器、そして古墳時代後期（5世紀後半～7世紀）の土師器と須恵器が確認されている（近藤2018）。

3　調査の成果

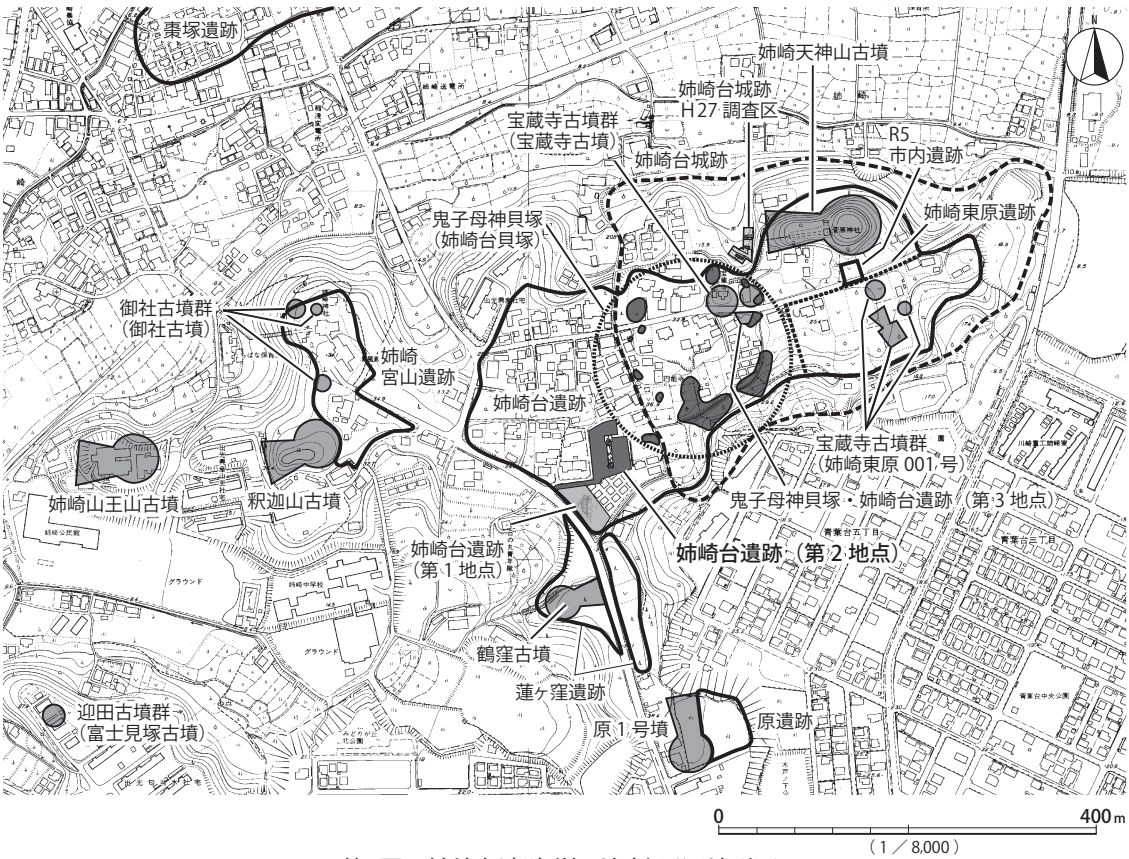
（1）調査概要（第3図）

今回の調査は確認調査で明らかになった遺構分布範囲のうち、工事個所と重なる地点205.49㎡を対象とした。事業範囲は、調査以前には畑地や道路として利用されていた。測量基準点は座標値（世

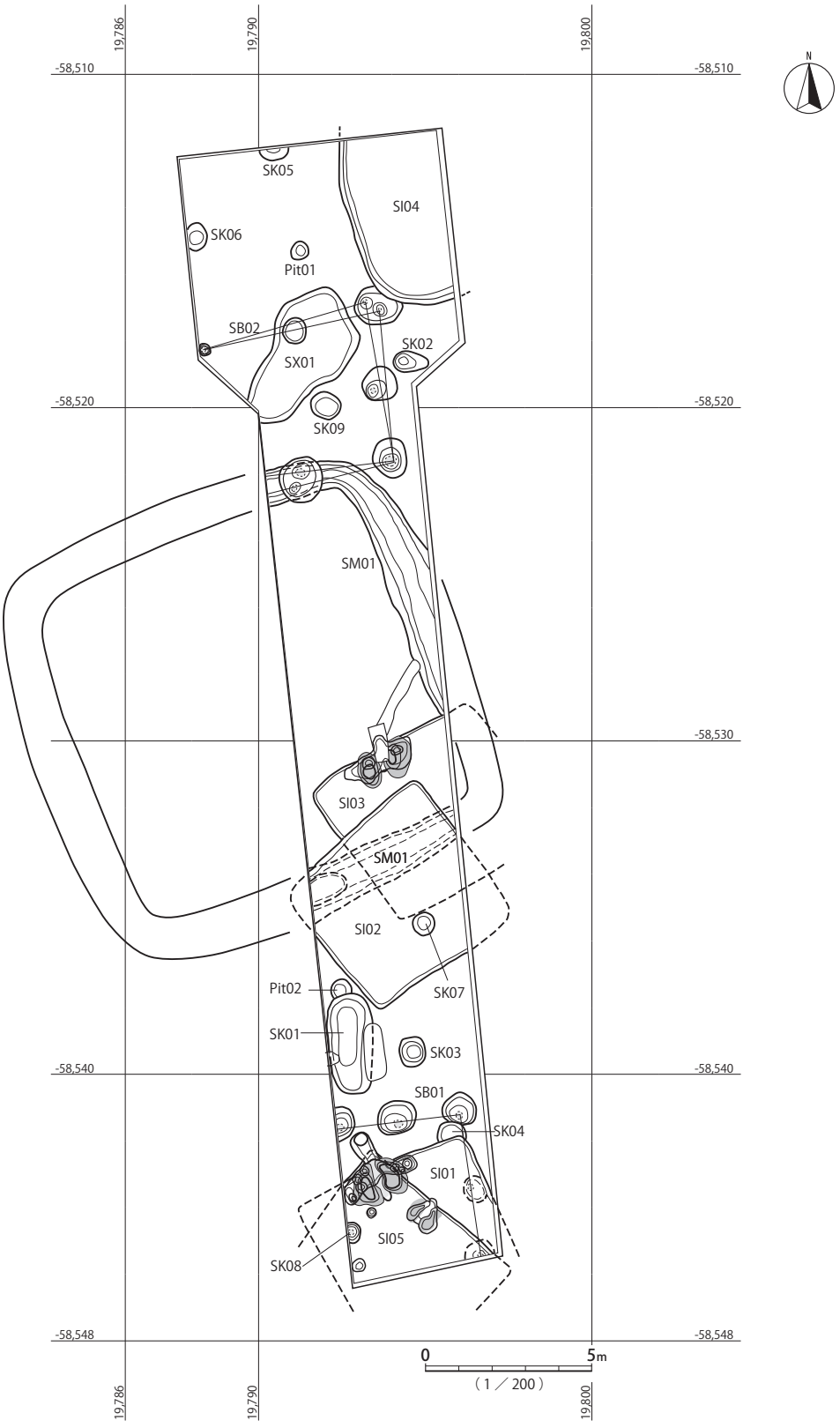


① 姉崎台遺跡（第2地点）　② 椎津城跡　③ 茶ノ木遺跡　④ 村上遺跡群（上総国府推定地Ⅱ）
⑤ 中台遺跡　⑥ 上総国分僧寺跡　⑦ 坊ヶ谷遺跡　⑧ 十五沢遺跡群　⑨ 今富廃寺跡　⑩ 西野遺跡群

第1図　姉崎台遺跡（第2地点）及び周辺遺跡位置図



第2図　姉崎台遺跡（第2地点）周辺地形図



第3図　姉崎台遺跡（第2地点）全体図

界測地系）を使用し、方眼杭を打設した。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。現地表から遺構検出面までの深度は調査区全体で約0.4 ～ 0.8mであり、調査区南側はソフトロームが確認できた一方、北側はハードロームのみ検出した。遺構の保存状況は比較的良好だった。

調査方法　竪穴建物跡などの覆土は、サブトレンチを設定し層序を確認した後、層位ごとに掘り下げを行った。カマドは袖部を露出させた後に、焚き口と煙道の軸に沿って直角方向・平行方向に土層断面図を作成した。出土遺物については、小破片は層位毎、または遺構毎に収集した。主な遺物や遺構プランについては遺構実測支援システム（電子平板「遺構くん cubic」）を用いて、形状や標高・座標を図化記録した。写真撮影はデジタルカメラ（PENTAX K－1 Mark II）で行った。調査は周辺地区の成果を踏まえて、弥生時代後期から古墳時代後期に属する遺構の検出を想定して行った。

（2）遺構と遺物

調査の結果、古墳時代前期の方墳周溝1基、古墳時代終末期の竪穴建物跡1棟、奈良時代竪穴建物跡1棟、同時期の掘立柱建物跡2棟、奈良・平安時代竪穴建物跡2棟、時期不明竪穴建物跡1棟、遺物集中土坑1基、土坑9基、ピット2基が検出された。また竪穴建物跡5棟のうち3棟からカマドが検出された。出土遺物は古墳時代前期～終末期の土器を中心に縄文時代早期から中世にかけての遺物が確認された。なお、掲載遺物の詳細は第1 ～ 4表、非掲載遺物の器種・個数・重量については第5表に記載している。

竪穴建物跡

SI01・SI05・SK08（第4 ～ 7図、図版3・4・6・11・12・14）

SI01

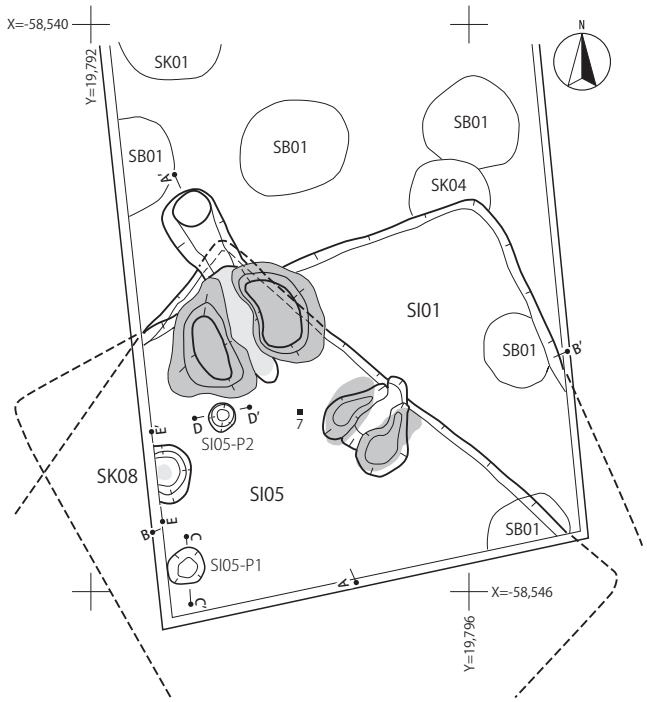
形態・規模　方形を呈し調査区南側に位置する竪穴建物跡である。本遺構は西側と南側の一部が遺構外にあるが、主軸方位はN－25°－W、北西壁幅は推定5.5mを測る。床までの深さは約0.5mであり、床面には貼床層が確認できる。本遺構の北側壁面にはカマドが付随しており、北壁0.8m付近には煙道奥壁凹部が検出されている。カマド袖の保存状態は良好であり、掘方より袖構築時に伴うと見られるピット状の窪みが検出された。またSI01の床面下にはSI05が位置しており、本遺構の貼床の一部はSI05の覆土から構成されている。

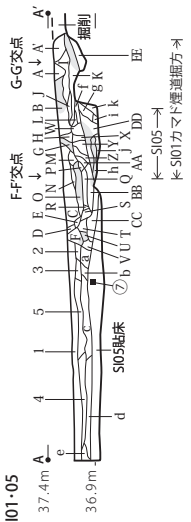
出土遺物　1は縄文時代後期後葉ものと思われる深鉢である。2は9世紀前葉以降の所産と思われる土師器の甕であり、カマドの両袖から出土した小片が接合したものである。3は外来産（駿東型）と考えられる土師器の甕（8世紀後葉）、4は須恵器の甕の小片であり内面を硯として転用している。5は貝巣穴泥岩、6は支脚、7は砥石（シルト岩か）、8は鉄滓である。また非掲載遺物として、内面に上総型暗文を施した土師器杯の小片や永田不入窯産の須恵器杯・蓋などがある。本遺構は9世紀前葉以降に帰属すると思われる。

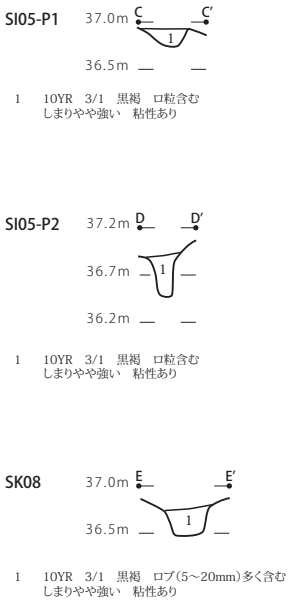
SI05

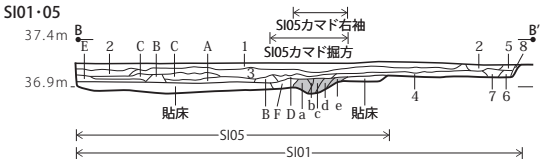
形態・規模　方形を呈し調査区の南側に位置する竪穴建物跡である。主軸方向はN－35°－E、北東壁幅は推定5.5mを測り、南側～西側の大半が調査区外へ続く。確認面までの深さは約0.65mであり、遺構の上端はSI01によって削平されている。床面には貼床層が確認できる。本遺構の北東壁面には

SI01・SI05・SK08









SI01・05 A-A'

1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性なし
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒多く含む しまり強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む しまり強い 粘性あり
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒含む、白粘粒・焼粒・炭粒少量含む しまり強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・白粘粒含む、焼粒・炭粒少量含む しまり強い 粘性あり
SI01・05 B-B' 3 層と同じ
A 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまり強い
粘性あり SI01 G-G' A 層と同じ
A' 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒・白粘プ(5～10mm)多く含む しまりやや強い
粘性あり
B 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまりやや強い
粘性あり
C 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒多く含む、白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
SI01 F-F' A 層と同じ
D 10YR 2/2 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒多く含む、白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
E 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、白粘粒・焼粒・炭粒含む しまり弱い 粘性なし
F 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・焼粒・炭粒多く含む、白粘粒含む しまり強い 粘性なし
G 5YR 2/1 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
H 10YR 3/1 黒褐 白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
I 10YR 2/1 黒 白粘粒含む、ロ粒・焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
SI01 G-G' B 層と同じ
J 10YR 2/1 黒 白粘粒含む、ロ粒・焼粒・炭粒少量含む しまり弱い 粘性あり
K 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
SI01 G-G' C 層と同じ
L 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまり強い 粘性あり
M 10R 3/3 暗赤褐 焼粒・炭粒多く含む・ロ粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
N 10YR 3/2 黒褐 焼プ(5～8mm)多く含む・ロ粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
SI01 F-F' C 層と同じ
O 10R 3/3 暗赤褐 ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
SI01 F-F' E 層と同じ
P 10R 2/1 赤黒 ロ粒・焼粒・炭粒・白粘粒含む しまり弱い 粘性なし
Q 10YR 3/1 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む しまり弱い 粘性なし
SI01 F-F' F 層と同じ
R 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
S 10YR 3/1 黒褐 焼粒・炭粒多く含む、白粘粒含む、ロ粒少量含む
しまり弱い 粘性なし
T 10YR 3/1 黒褐 焼粒・炭粒・白粘粒含む、ロ粒少量含む しまり弱い 粘性あり
U 10YR 2/1 黒 焼プ・炭プ(5～10mm)含む、ロ粒・白粘粒少量含む しまり弱い 粘性あり
V 10R 3/3 暗赤褐 焼粒・炭粒含む、ロ粒・白粘粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
W 10YR 2/1 黒 白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
X 10YR 2/1 黒 白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む しまり弱い 粘性あり
Y 10YR 2/1 黒 ロ粒・焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む しまり弱い 粘性あり
Z 10YR 2/2 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
AA 10YR 2/1 黒 ロ粒・焼粒・炭粒・白粘粒含む しまり弱い 粘性なし
BB 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む
しまり弱い 粘性なし SI01 F-F' G 層と同じ
CC 10YR 3/1 黒褐 焼粒・炭粒多く含む、ロ粒含む、白粘粒少量含む
しまり弱い 粘性なし
DD 10YR 3/3 暗褐 焼粒・炭粒多く含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
EE 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
a 10YR 4/4 褐 ロ粒・焼粒・炭粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
b 10YR 3/2 黒褐 白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
c 10YR 2/2 黒褐 白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
d 10YR 3/1 黒褐 白粘粒・焼粒・炭粒含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
e 10YR 2/1 黒 ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
f 10YR 1.7/1 黒 ロ粒少量含む しまり弱い 粘性あり
g 10YR 3/3 暗褐 ロ粒含む、焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
h 10YR 3/1 黒褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
i 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む しまり強い 粘性あり
j 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
k 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性あり 壁崩れ土

SI01・05 B-B'

1 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまりやや強い
粘性なし
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む
しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・白粘粒含む、焼粒・炭粒少量含む しまり強い
粘性あり SI01・05 A-A' 5 層と同じ
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒含む、焼粒・炭粒少量含む しまり強い 粘性あり
5 10YR 3/4 暗褐 ロ粒多く含む、焼粒少量含む しまり弱い 粘性なし
6 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、焼粒少量含む しまり弱い 粘性なし
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
A 10YR 2/2 黒褐 白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒少量含む
しまりやや強い 粘性あり
B 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
C 10YR 3/1 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
D 10YR 4/2 灰黄褐 ロプ(50mm)・ロ粒含む、焼粒・炭粒少量含む
しまりやや強い 粘性あり
E 10YR 3/1 黒褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い
粘性あり
F 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む しまりやや強い
粘性あり
a 10YR 1.7/1 黒 焼粒・炭プ(5～30mm)多く含む しまり弱い 粘性なし
b 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒・焼粒・炭粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
c 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い
粘性あり
d 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む しまりやや強い
粘性あり
e 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロプ(5～10mm)多く含む しまり弱い 粘性なし

土層・遺構対応表(A-A')

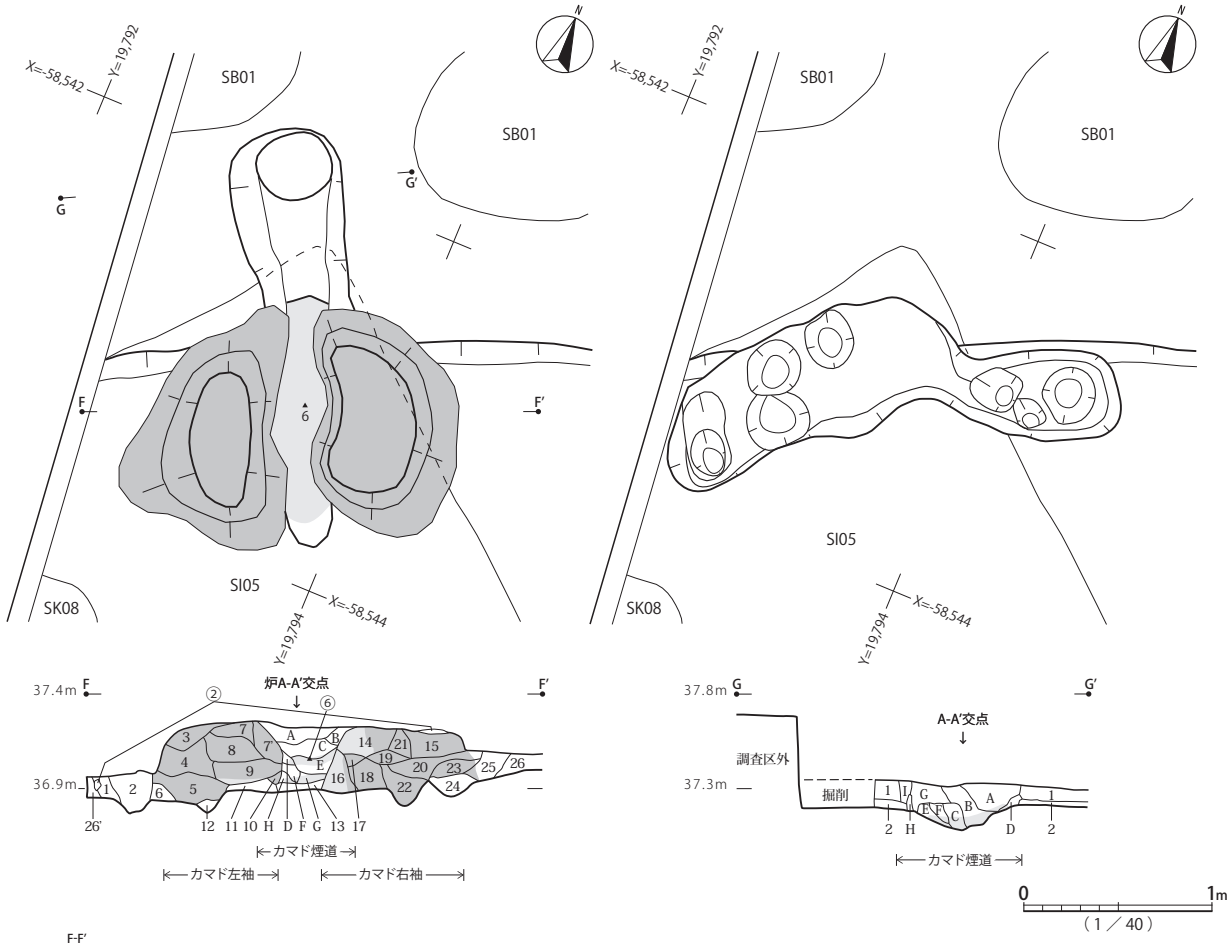
SI01 覆土	1
SI01 貼床層	2 ～ 5
SI01 煙道	A ～ EE
SI05 覆土	a ～ k

土層・遺構対応表(B-B')

SI01 覆土	1
SI01 貼床層	2 ～ 4
SI01 壁崩れ土	5 ～ 8
SI05 覆土	A ～ F
SI05 カマド右袖	a ～ e

第4図 SI01 遺構実測図(1)、SI05 遺構実測図(1)、SK08 遺構実測図

SI01カマド・掘方



F-F'

1	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまり弱い　粘性なし
2	10YR	2/2	黒褐	焼粒・炭粒含む、ロ粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
3	10YR	4/2	灰黄褐	白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む　しまり強い　粘性あり
4	10YR	4/1	褐灰	白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む、ロ粒少量含む　しまり強い　粘性あり
5	10YR	3/1	黒褐	しまり弱い　粘性あり
6	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまり強い　粘性あり
7	10YR	5/2	灰黄褐	白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒含む　しまり強い　粘性あり
7'	10YR	4/2	灰黄褐	白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	4/2	灰黄褐	白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む、スコリア状ブロック(10YR 5/6 黄褐)多く含む　しまり強い　粘性あり
9	10YR	2/2	黒褐	焼粒・炭粒多く含む、ロ粒・白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	2/1	黒	ロ粒・焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
11	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまり強い　粘性あり
12	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまり弱い　粘性なし
13	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
14	2.5YR	4/3	にぶい赤褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼プ・炭プ・白粘プ(5～10mm)多く含む　しまり強い　粘性あり
15	10YR	5/2	灰黄褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
16	2.5YR	3/1	暗赤灰	ロ粒・焼粒・炭粒多く含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
17	10YR	2/2	黒褐	しまり弱い　粘性なし
18	10YR	2/2	黒褐	ロプ(5～8mm)多く含む、焼粒・炭粒多く含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
19	10YR	2/2	黒褐	ロプ(5～8mm)多く含む、焼粒・炭粒・白粘粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
20	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロプ(5～8mm)多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり強い　粘性あり
21	10YR	6/3	にぶい黄橙	白粘粒多く含む、白粘粒・焼粒・炭粒少量含む　しまり強い　粘性あり
22	10YR	2/2	黒褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
23	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、白粘粒・焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
24	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
25	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、白粘粒・焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
26	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
26'	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり弱い　粘性なし
A	10YR	3/2	黒褐	ロ粒・焼粒・炭粒多く含む、白粘粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI01・05 A-A' C 層と同じ
B	10YR	3/2	黒褐	焼プ(5～8mm)多く含む、ロ粒・白粘粒含む　しまりやや強い　粘性あり
C	10YR	3/2	黒褐	焼プ(5～8mm)多く含む・ロ粒・白粘粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI01・05 A-A' N 層と同じ
D	10YR	3/1	黒褐	白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
E	10R	3/3	暗赤褐	ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI01・05 A-A' O 層と同じ
F	10YR	3/1	黒褐	ロ粒・焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む　しまり弱い　粘性なし　SI01・05 A-A' Q 層と同じ
G	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む、白粘粒少量含む　しまり弱い　粘性なし　SI01・05 A-A' BB 層と同じ
H	10YR	2/1	黒	焼粒・炭粒多く含む、ロ粒含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり

土層・遺構対応表(F-F')

カマド掘方窪み	1, 2, 12, 24
カマド左袖	3 ～ 5, 7 ～ 10
SI05 貼床層	6, 11, 13, 26, 26'
カマド右袖	14 ～ 23, 25
SI01 カマド煙道	A ～ H

G-G'

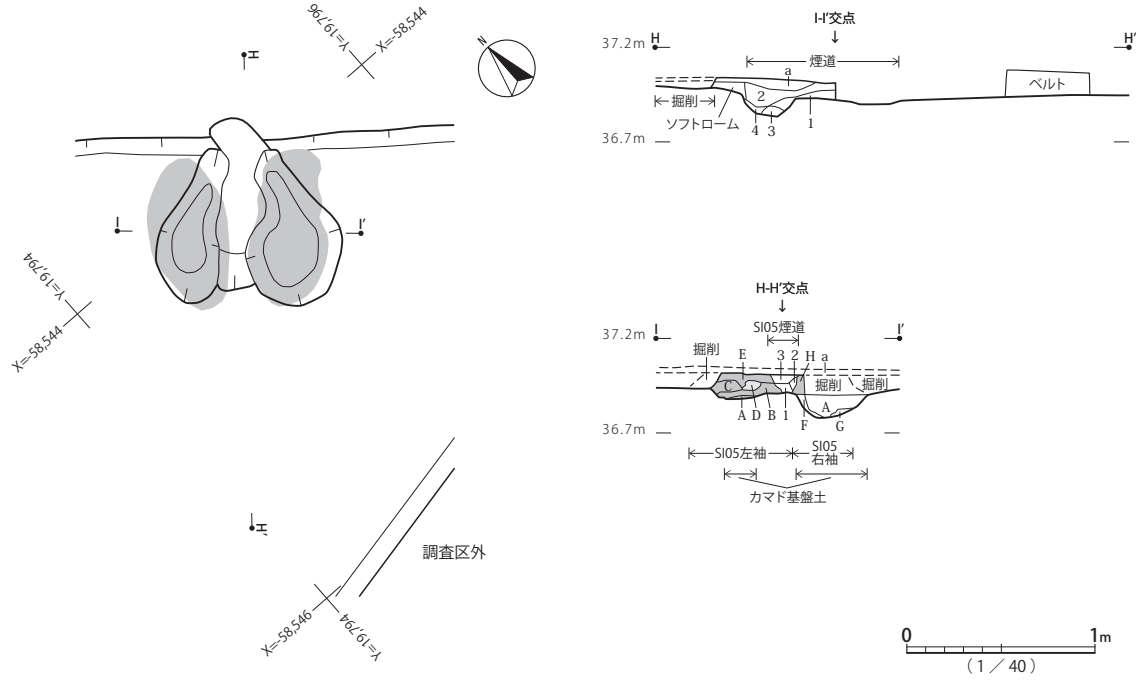
1	10YR	5/6	黄褐	しまりやや強い　粘性あり　ソフトロームと上層との漸移層
2	ソフトローム			
A	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまり強い　粘性あり　SI01・05 A-A' A 層と同じ
B	10YR	2/1	黒	白粘粒含む、ロ粒・焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり　SI01・05 A-A' I 層と同じ
C	10YR	3/2	黒褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI01・05 A-A' K 層と同じ
D	10YR	3/2	黒褐	ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
E	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
F	10YR	2/2	黒褐	ロ粒・焼粒・炭粒、白粘プ(5～20mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
G	10YR	3/2	黒褐	ロ粒・焼粒・炭粒、白粘プ(5～10mm)含む　しまりやや強い　粘性あり
H	10YR	2/2	黒褐	ロ粒含む　しまり弱い　粘性なし
I	10YR	4/2	灰黄褐	ロ粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり

土層・遺構対応表(G-G')

漸移層	1
ソフトローム	2
SI01 カマド煙道	A ～ I

第5図　SI01 遺構実測図(2)

SI05カマド・掘方



SI05 カマド H-H'

1	10YR	3/2	黒褐　ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI05 I-I' 1 層と同じ
2	10YR	4/2	灰黄褐　白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI05 I-I' 3 層と同じ
3	10YR	3/3	暗褐　ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	4/3	にぶい黄褐　ロ粒多く含む、焼粒・炭粒含む　しまり弱い　粘性なし
a	10YR	2/2	黒褐　ロ粒・白粘粒含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり強い　粘性あり

SI05 カマド I-I'

1	10YR	3/2	黒褐　ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI05 H-H' 1 層と同じ
2	10YR	5/3	にぶい黄褐　白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	4/2	灰黄褐　白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む　しまりやや強い　粘性あり　SI05 H-H' 2 層と同じ
A	10YR	2/2	黒褐　ロ粒・白粘粒含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり強い　粘性あり
B	10YR	5/4	にぶい黄褐　ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり強い　粘性あり
C	10YR	3/2	黒褐　ロ粒・白粘粒・焼粒・炭粒含む　しまり強い　粘性あり
D	2.5YR	3/2	暗赤褐　焼粒・炭粒多く含む、ロ粒・白粘粒少量含む　しまり強い　粘性あり
E	10YR	2/2	黒褐　白粘粒・焼粒・炭粒多く含む、ロ粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
F	10YR	4/3	にぶい黄褐　ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
G	10YR	3/2	黒褐　ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
H	10YR	4/2	灰黄褐　白粘ブ(5～8mm)多く含む、ロ粒・焼粒・炭粒含む　しまり強い　粘性あり
a	10YR	2/2	黒褐　ロ粒・白粘粒含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり強い　粘性あり

土層・遺構対応表(H-H')

SI05 カマド煙道	1 ～ 4
SI01 貼床層	a

土層・遺構対応表(I-I')

SI05 カマド煙道	1 ～ 3
SI05 カマド袖	A ～ H
SI01 貼床層	a

第6図　SI05 遺構実測図(2)

カマドが付随しているが、SI01 の貼床層の除去中に検出された遺構であるため、本カマドは床面下に痕跡を僅かにとどめる程度であった。また本遺構検出域西側には柱穴(SI05－P1、SI05－P2)が位置しており、直径と深さはそれぞれ約 0.5m と約 0.2m、約 0.4m と約 0.45m である。貼床層直上まで SI01 に破壊されていた影響で SI05 に由来すると判断できる遺物は少ない。

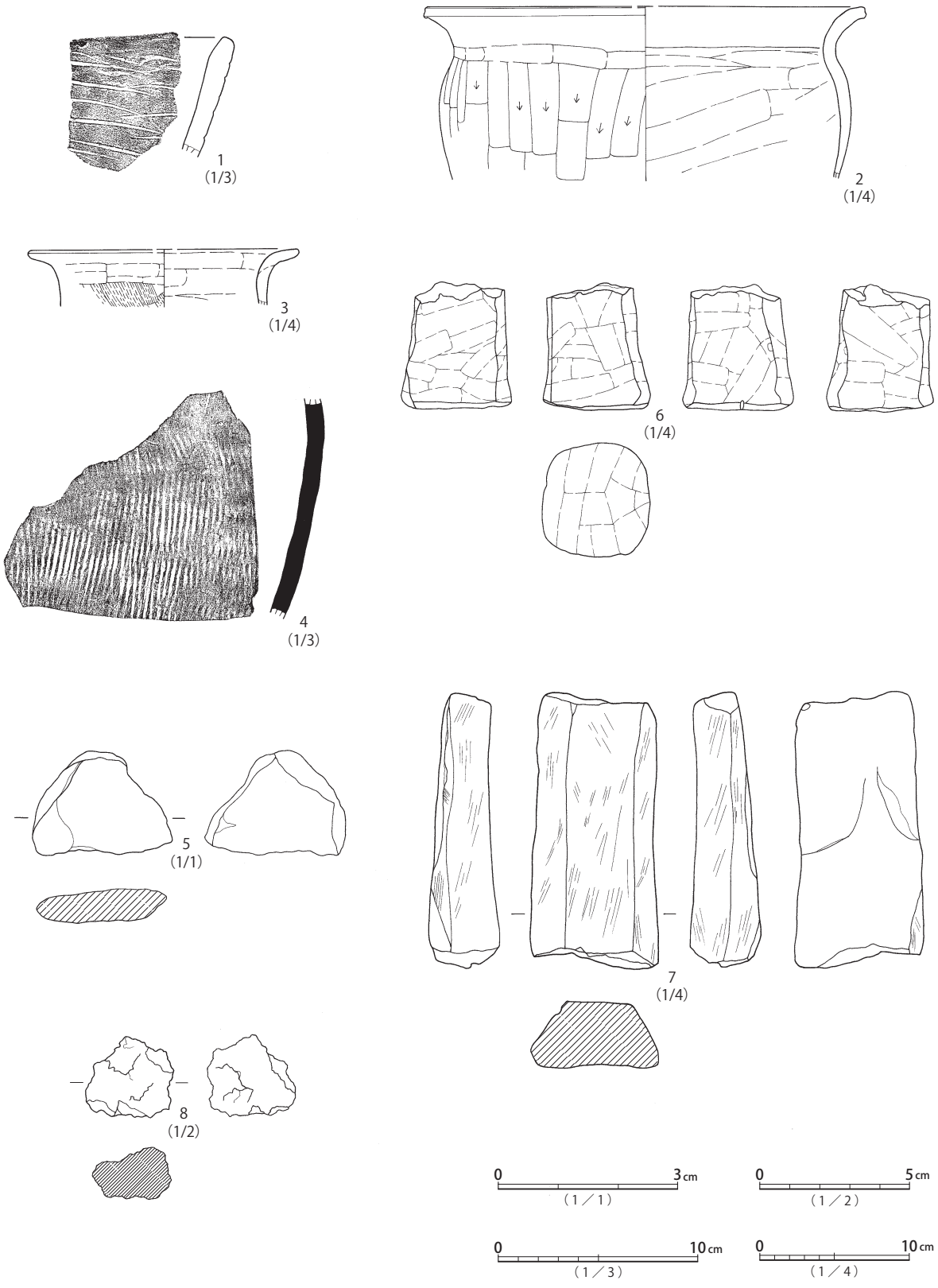
出土遺物　非掲載遺物として土師器の甕や杯が確認されている。本遺構は周辺の遺構との前後関係などから 9 世紀前葉以降に属すると考えられる。

SK08

形態・規模　SI01 のカマド南側に位置する土坑であり、遺構西側は調査区外に続く。円形を呈し、直径と深さはそれぞれ約 0.5m、約 0.25m を測る。遺構検出面は SI05 の貼床層の下であり、遺構底面には柱当たりが確認できる。後述する近接の SB01 と SI05 の新旧関係を踏まえると、SK08 の上端は SI05 建築時に破壊されたと推察されることから SI01・SI05 の柱穴ではなく、別の建物遺構を構成する可能性が高い。

出土遺物　非掲載遺物として土師器の甕が 2 点出土している。本遺構は SI05 建造以前、つまり 9 世紀初頭以前に属すると推定される。

SI01



第7図　SI01 遺物実測図

SI02・SK07（第8・10図、図版4・11・12・14）

SI02

形態・規模　方形を呈しSI01・SI05の北約4.5mに位置する竪穴建物跡である。主軸方向は不明確だが北西−南東軸約4.8m、北東−南西軸5.2mを測る。本遺構は北西・南東角を除き遺構の大半を今回の調査で確認することができたが、カマドは検出されなかった。床面までの深さは約0.4mであり、遺構北側でSI03・SM01に切り込んでいる。また床面には貼床層が確認できる。

出土遺物　1と2は縄文時代早期の深鉢であり、前者は早期中葉（田戸式）、後者は早期後葉の所産と考えられる。3～6は縄文時代後期の深鉢であり3は堀之内式、4と5は後期後葉、6は後期末（安行2式）のものと思われる。7～11は縄文時代晩期と思われる深鉢・鉢類であり、7は前浦式のものと考えられる。12は内面黒色処理の古墳時代終末期の土師器高杯であり鬼高式（7世紀後半）、13は古墳時代前期（草刈式）の土師器直口壺、14は古墳時代前期の土師器壺、15は古墳時代中期（5世紀後半）の土師器甑であり貼床層より出土した。16は永田不入窯II期（8世紀中葉）の須恵器杯であり底部内外面を砥石（内面は硯転用の可能性）に転用している。17は陶邑産の須恵器杯であり7世紀第1～2四半期のものと考えられる。18は古墳時代中期後葉（5世紀後半）の須恵器壺類であり本遺構の床面直上層より一括取り上げ遺物として出土した。19は5世紀代に属すると思われる須恵器瓶であり、本遺構の貼床層より出土した。また非掲載遺物として土師器杯・甕・甑、須恵器杯・甕・蓋などが確認されている。本遺構は8世紀中葉頃の所産と思われる。

SK07

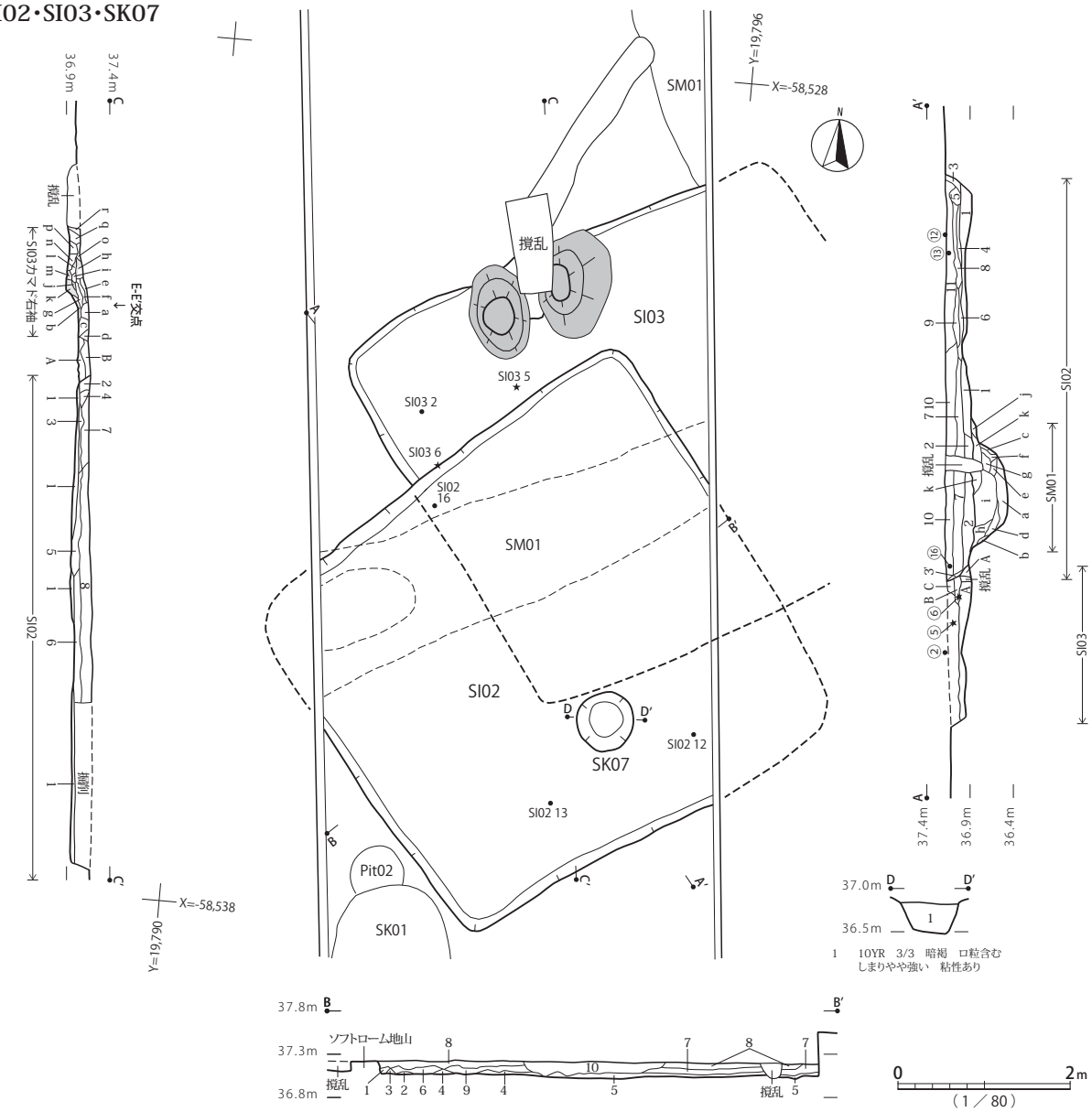
形態・規模　SI02の中心部やや南西に位置する土坑である。円形を呈し、直径と深さはそれぞれ約0.6m、約0.3mを測る。遺構底面から柱当たりは確認されていない。遺構検出面はSI02の貼床層の下である。出土遺物はないが、切り合い関係から本遺構は8世紀中葉以前のものと推定される。

SI03（第8・9・11図、図版4～6・15）

形態・規模　方形を呈すると考えられる竪穴建物跡で、遺構東側は調査区外へ続き、南側はSI02によって切られている。主軸方向はN−35°−Wであり北壁面にカマドが付随している。床面までの深さは約0.5mであり、調査区東壁付近で後述のSM01と重複関係となっている。カマド袖の保存状態は良好であるが、煙道については後世の撹乱によって破壊されている。西側袖部上面には完形の土製支脚が出土しており、カマド廃絶時の儀礼的行為の可能性がある。

出土遺物　1は古墳時代終末期（7世紀中葉）の土師器杯、2は7世紀第3四半期の須恵器蓋であり両者ともに鬼高式に属すると考えられる。3は土製支脚、4は貝巣穴泥岩である。5は茎から上身の中央部まで口巻痕跡のある鉄鏃であり7世紀中葉のものと考えられる。6は茎部に木目痕と口巻痕跡、頸部に逆刺が僅かに残る鉄銛であり、形状から古墳時代終末期（7世紀後半）頃の外来系遺物と思われる。この他、非掲載遺物として土師器杯・甕・壺などが確認されている。本遺構は7世紀中葉～末の所産と考えられる。

SI02・SI03・SK07



A-A′

1	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(3mm 以下)・焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
3	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性なし
3′	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
4	10YR	2/3	黒褐	ロ粒含む、ロブ(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
5	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm 程度)含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
6	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm 程度)含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
7	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm 程度)少量含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
8	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
9	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、白粘粒含む しまりやや強い 粘性なし
10	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性なし
11	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 以下)含む しまりやや強い 粘性なし
A	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm 程度)・ロブ(5mm 程度)含む しまりやや強い 粘性あり
B	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む しまりやや強い 粘性なし
C	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性なし
a	10YR	4/6	褐	ロブ(5～15mm)多く含む しまり強い 粘性あり
b	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
c	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
d	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
e	10YR	3/3	暗褐	ロ粒少量含む しまり弱い 粘性あり
f	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む しまり弱い 粘性あり
g	10YR	3/2	黒褐	ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
h	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
i	10YR	3/1	黒褐	ロブ(5～15mm)・ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
j	10YR	4/4	褐	ロブ(5～8mm)多く含む しまり弱い 粘性あり
k	10YR	3/3	暗褐	ロブ(5～8mm)多く含む しまりやや強い 粘性あり

B-B′

1	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
2	10YR	2/3	黒褐	ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
3	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5mm 程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
4	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm 程度)含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
5	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm 程度)少量含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
6	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～3mm 程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
7	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
8	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、白粘粒含む しまりやや強い 粘性なし
9	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む、白粘粒含む しまりやや強い 粘性なし
10	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性なし

C-C′

1	10YR	3/2	黒褐	ロ粒含む、焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
2	10YR	3/4	暗褐	ロ粒(1mm 程度)少量含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性なし
3	10YR	2/3	黒褐	ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
4	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5mm 程度)少量含む しまりやや強い 粘性あり
5	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm 程度)含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
6	10YR	2/3	黒褐	ロ粒(1～5mm 程度)少量含む、焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
7	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 以下)含む しまりやや強い 粘性なし
8	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む しまりやや強い 粘性なし
a	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・焼粒・白粘粒多く含む しまりやや強い 粘性なし E-E′1 層と同じ
b	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり E-E′3 層と同じ
c	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
d	10YR	3/4	暗褐	ロ粒・白粘粒多く含む、焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
e	10YR	3/4	暗褐	ロ粒・白粘粒多く含む しまりやや強い 粘性なし
f	10YR	3/4	暗褐	白粘粒多く含む、ロ粒含む しまりやや強い 粘性なし
g	10YR	3/4	暗褐	ロ粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性なし
h	10YR	2/3	黒褐	ロ粒・焼粒多く含む、白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
i	10YR	2/3	黒褐	白粘粒多く含む、ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
j	10YR	2/3	黒褐	ロ粒・焼粒・白粘粒多く含む しまり弱い 粘性あり
k	10YR	3/2	黒褐	ロ粒・焼粒多く含む、白粘粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
l	10YR	2/3	黒褐	ロ粒・炭粒・白粘粒含む、焼粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
m	10YR	2/3	黒褐	ロ粒・炭粒・焼粒含む、白粘粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
n	10YR	3/2	黒褐	ロ粒・炭粒含む、白粘粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
o	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・白粘粒含む、炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
p	10YR	2/3	黒褐	ロ粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
q	10YR	2/3	黒褐	ロ粒・炭粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
r	10YR	2/3	黒褐	炭粒含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり

土層・遺構対応表(A-A′)

SI02 貼床層	1, 2
SI02 壁崩れ土	3, 3′
SI02 覆土	4 ～ 11
SI03 貼床層	A
SI03 覆土	B, C
SM01 覆土	a ～ k

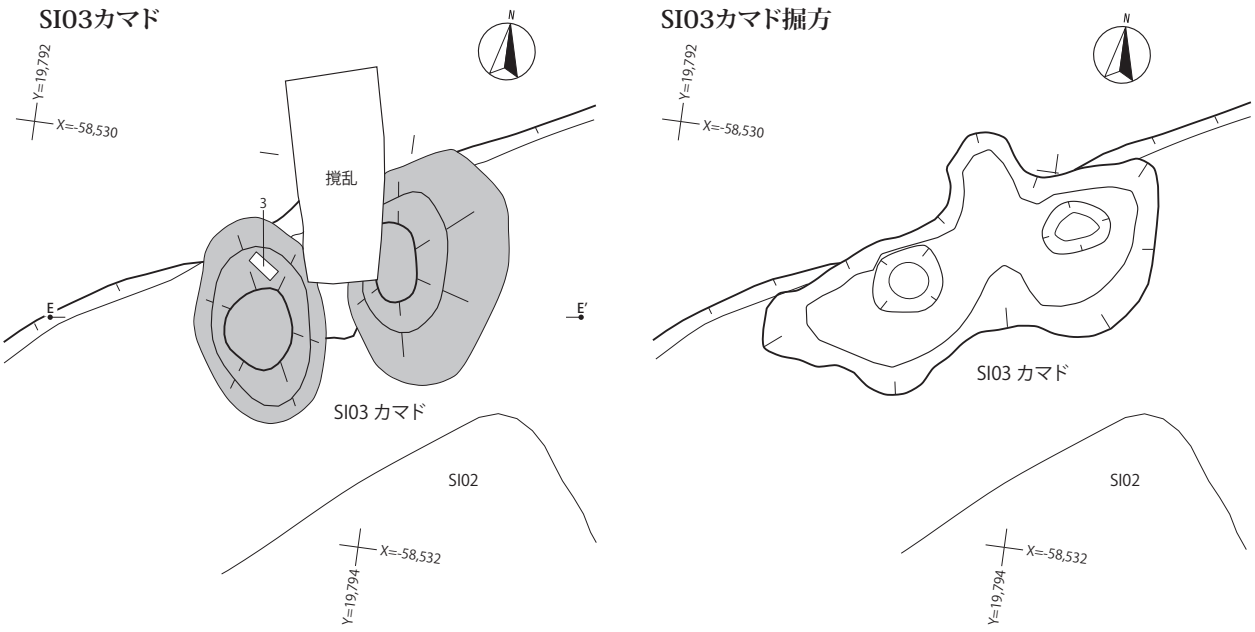
土層・遺構対応表(B-B′)

SI02 貼床層	1
SI02 壁崩れ土	2
SI02 覆土	3 ～ 10

土層・遺構対応表(C-C′)

SI02 貼床層	1, 2
SI02 壁崩れ土	3
SI02 覆土	4 ～ 8
SI03 カマド右袖	a ～ r

第8図　SI02・SK07 遺構実測図、SI03 遺構実測図(1)



土層・遺構対応表(E-E′)

SI03 カマド右袖	1 ～ 12
SI03 カマド左袖	13 ～ 24
SI03 覆土	A ～ E
SI0 カマド煙道	a ～ c
SI03 カマド煙道掘方	あ～う

1	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・焼粒・白粘粒多く含む　しまりやや強い　粘性なし　C-C′ a 層と同じ
2	10YR	3/4	暗褐	ロ粒・焼粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり　C-C′ b 層と同じ
4	10YR	3/3	暗褐	白粘粒多く含む、ロ粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
6	10YR	3/4	暗褐	ロ粒多く含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
7	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・白粘粒含む　しまりやや強い　粘性あり
8	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5～10mm)含む、白粘粒含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
9	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5～8mm)含む、白粘粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
10	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5～10mm)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
11	10YR	3/3	暗褐	ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性なし
12	10YR	3/3	暗褐	ロブ(5～15mm)多く含む　しまりやや強い　粘性なし
13	10YR	3/4	暗褐	ロブ(5mm 程度)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
14	10YR	3/4	暗褐	ロ粒・焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
15	10YR	3/3	暗褐	白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒含む　しまりやや強い　粘性なし
16	10YR	3/4	暗褐	ロ粒・焼粒微量含む　しまりやや強い　粘性あり
17	10YR	3/3	暗褐	ロ粒・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
18	10YR	3/4	暗褐	ロブ(5mm 程度)少量含む　しまりやや強い　粘性あり
19	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
20	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5mm 程度)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
21	10YR	3/2	黒褐	白粘粒多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
22	10YR	3/2	黒褐	白粘粒多く含む、ロ粒・焼粒含む　しまりやや強い　粘性なし
23	10YR	3/4	暗褐	ロ粒多く含む、白粘粒微量含む　しまりやや強い　粘性あり
24	10YR	3/4	暗褐	ロブ(5mm 程度)多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
A	10YR	3/2	黒褐	ロ粒(1～3mm 程度)・ロブ(5mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性あり
B	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む　しまりやや強い　粘性なし
B′	10YR	3/3	暗褐	焼粒・白粘粒多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性なし
C	10YR	3/3	暗褐	ロ粒(1mm 程度)含む　しまりやや強い　粘性なし
D	10YR	3/3	黒褐	ロ粒・焼粒・白粘粒少量含む　しまり弱い　粘性なし
E	10YR	3/3	黒褐	ロ粒・焼粒・白粘粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
a	10YR	2/2	黒褐	焼粒・白粘粒多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
b	10YR	3/2	黒褐	焼粒・白粘粒多く含む、ロ粒含む　しまり弱い　粘性なし
c	10YR	3/1	黒褐	焼粒・白粘粒多く含む、ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
あ	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
い	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
う	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり

第9図　SI03 遺構実測図(2)

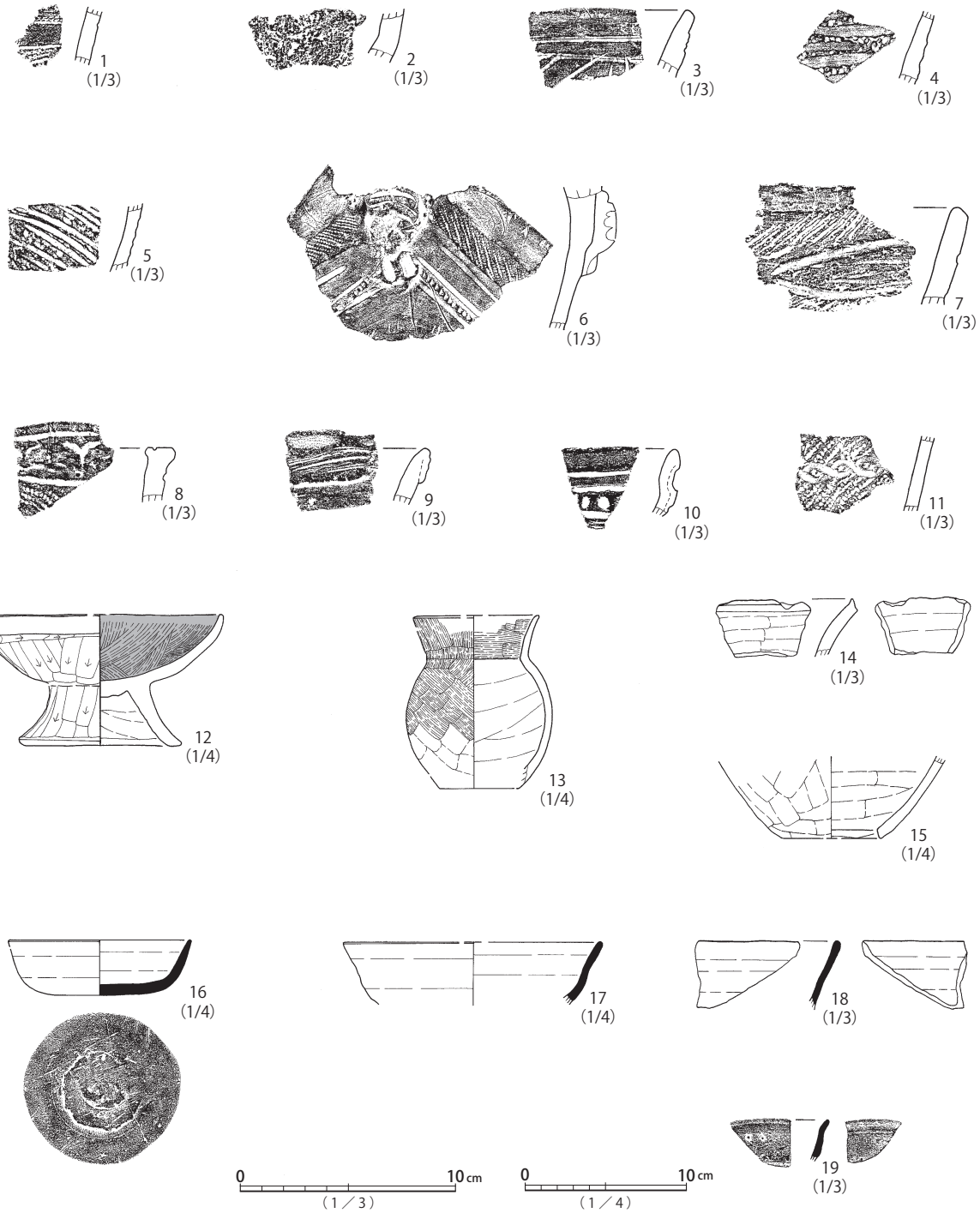
SI04・SK05・SK06・Pit01（第12図、図版5・6・10・11・15・16）

SI04

形態・規模　方形を呈する竪穴建物跡で、遺構東側と北側は調査区外に延びる。床面までの深さは約 0.6m であり、貼床層が確認できる。また本遺構は後世の撹乱によって床面直上まで破壊されている影響で覆土の様相は不明瞭であり、出土遺物の中から本遺構に明確に由来する遺物を判別することは困難であった。

出土遺物　1 は縄文時代晩期（安行 3a 式）の深鉢、2 は古墳時代後期（鬼高式）の土師器高杯であり、後者は床面より出土している。3 は土師器杯であり底部付近に縦方向にヘラ記号が確認できる。4 は土師器の小片であり厚さが薄く、焼成後に外面より穿孔されていることから外来系のものの可能性がある。5 と 6 は常滑産の中世陶器で、前者は片口鉢 II 類、後者は鉢類であり床面より出土している。また非掲載遺物として、古墳時代前期の土師器甕や壺類、古墳時代後期～終末期にかけての土師器杯類、須恵器蓋・瓶壺、中世陶器などが確認されている。

SI02



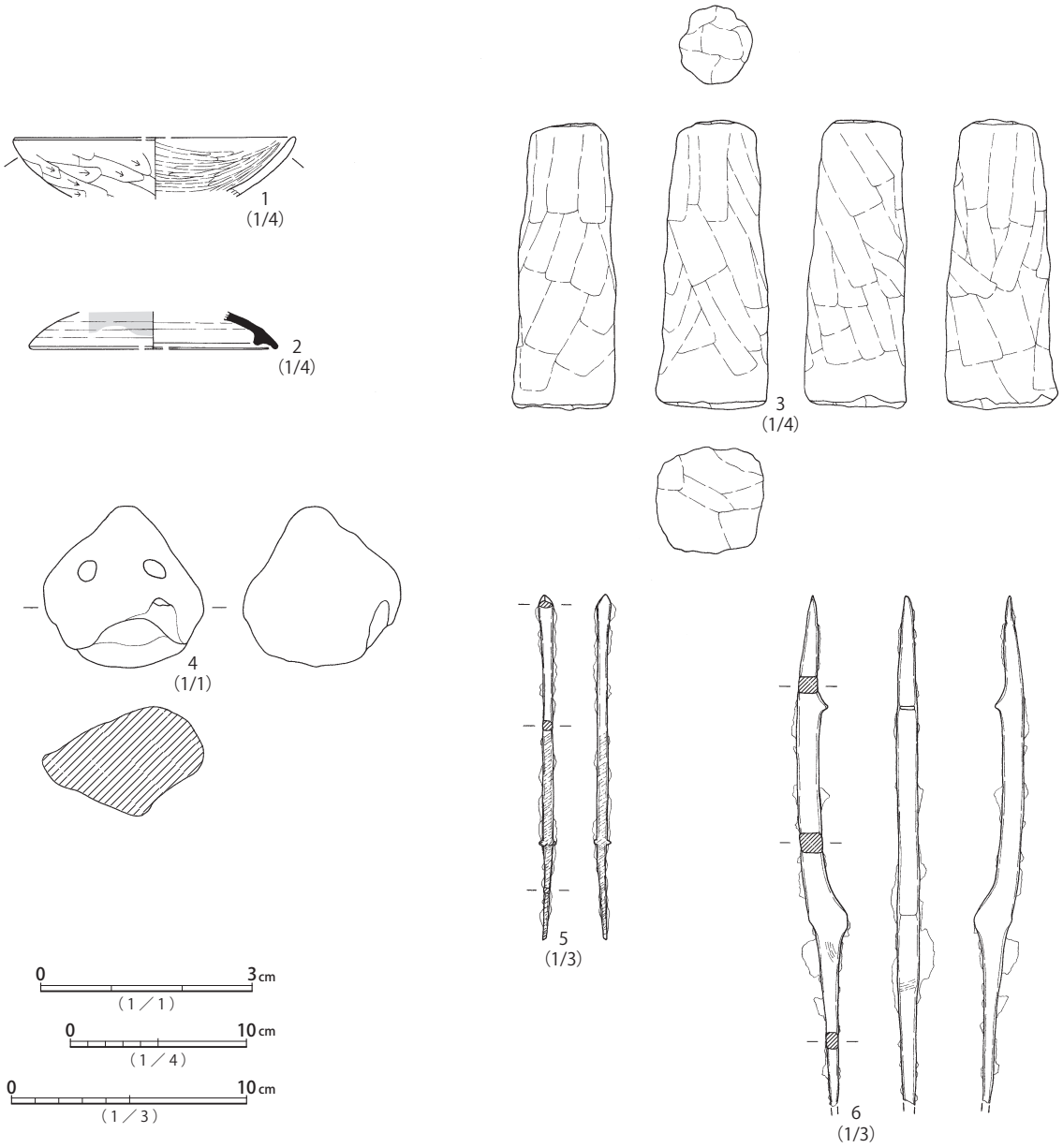
第10図　SI02 遺物実測図

SK05

形態・規模　調査区北壁沿いに位置する土坑であり、遺構北側は調査区外へ続く。平面形は円形を呈していると考えられ、遺構確認面までの深さ、直径と深さはそれぞれ約 0.8m、約 0.8m、約 0.4m を測る。柱痕跡や柱当たりは確認できず、時期推定可能な遺物もないことから年代・性格共に不明である。

出土遺物　図化資料はないが、縄文時代後期の深鉢や鬼高式の土師器杯などが出土している。

SI03



第11図　SI03 遺物実測図

SK06

形態・規模　調査区北側の西壁沿いに位置する土坑である。円形を呈し、直径と深さはそれぞれ約0.75m、約 0.3m を測る。柱痕跡や柱当たりは確認できず、時期推定可能な遺物もないことから年代・性格共に不明である。

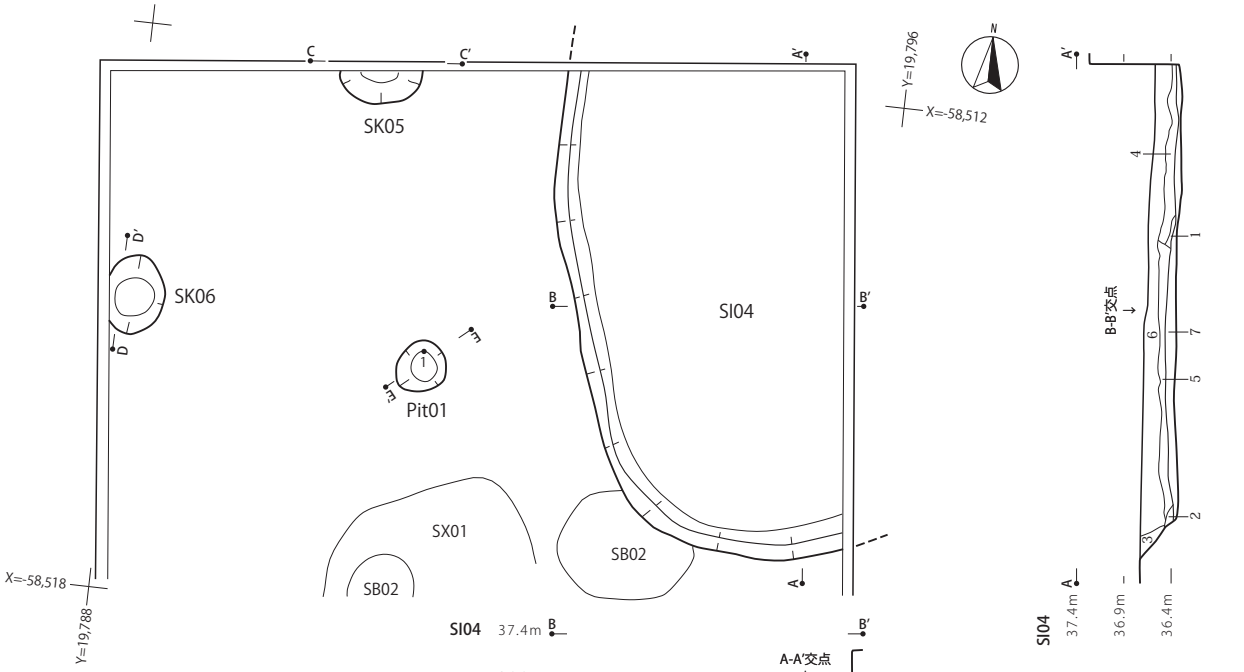
出土遺物　1 は縄文時代晩期末と推定される深鉢である。また非掲載遺物としては草刈式の土師器甕や須恵器の蓋などがある。

Pit01

形態・規模　調査区北側、SI04 と SK06 の間に位置するピットである。円形を呈し、直径と深さはそれぞれ約 0.55m、約 0.4m を測る。柱痕跡や柱当たりは確認できない。

出土遺物　1 はハケメの施された土師器の甕で、古墳時代前期の草刈式に位置付けられる。他に非掲載遺物として、土師器甕 1 点がある。

SI04・SK05・SK06・Pit01



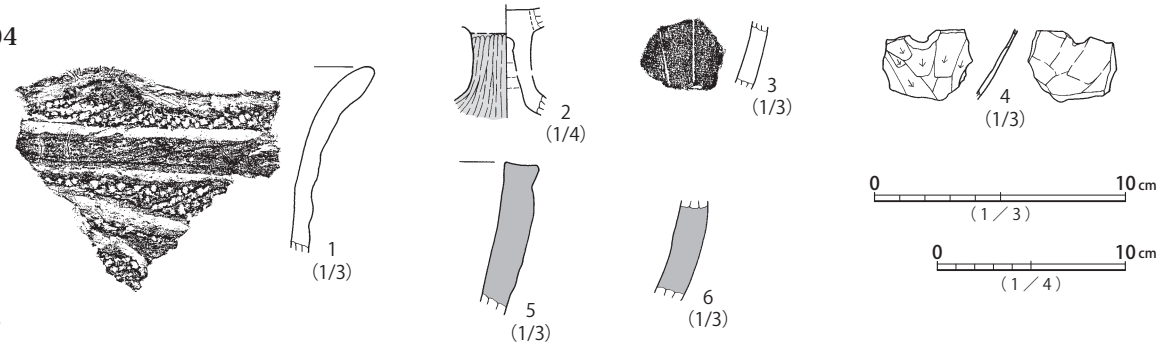
A-A'

1	10YR	5/6	黄褐	ロブ(5～10mm)多く含む・焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり
2	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒含む　しまり強い　粘性あり
4	10YR	3/2	黒褐	ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒含む、乳白色スリット状粒子多く含む　しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	2/2	黒褐	ロ粒・焼粒多く含む、乳白色スリット状粒子多く含む　しまりやや強い　粘性あり　B-B' 3 層と同じ
6	10YR	3/3	暗褐	乳白色スリット状粒子多く含む、ロ粒・焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　B-B' 4 層と同じ
7	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり　B-B' 5 層と同じ

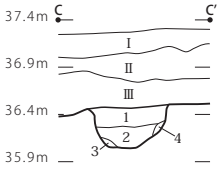
B-B'

1	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	4/3	にぶい黄褐	ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	2/2	黒褐	ロ粒・焼粒多く含む、乳白色スリット状粒子多く含む　しまりやや強い　粘性あり　A-A' 5 層と同じ
4	10YR	3/3	暗褐	乳白色スリット状粒子多く含む、ロ粒・焼粒含む　しまりやや強い　粘性あり　A-A' 6 層と同じ
5	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり　A-A' の 7 層と同じ

SI04

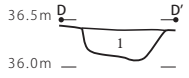


SK05



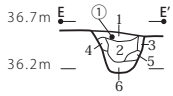
I	10YR	4/3	にぶい黄褐	しまり非常に強い　粘性あり
II	10YR	4/2	灰黄褐	しまり強い　粘性あり
III	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
1	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、ロブ(5～8mm)含む、焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、焼粒・炭粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	3/2	黒褐	ロ粒多く含む、ロブ(5～8mm)含む、焼粒・炭粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
4	10YR	4/4	褐	ロ粒多く含む　しまり弱い　粘性なし

SK06



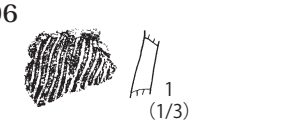
1	10YR	2/2	黒褐	ロブ(5～8mm)・ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり

Pit01

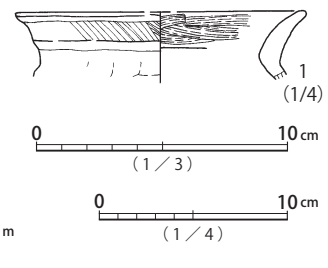


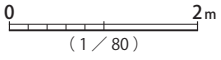
1	10YR	3/3	暗褐	ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり
2	10YR	3/3	暗褐	ロ粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
3	10YR	3/3	暗褐	ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
4	10YR	3/2	黒褐	ロ粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
5	10YR	3/2	黒褐	ロ粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
6	10YR	3/1	黒褐	ロ粒含む　しまりやや強い　粘性あり

SK06



Pit01





第12図　SI04・SK05・SK06・Pit01 遺構実測図、SI04・SK06・Pit01 遺物実測図

掘立柱建物跡

SB01・SK04（第13図、図版7・10）

SB01

形態・規模　調査区南側に位置する掘立柱建物跡で、南側～西側にかけて調査区外へ続く。主軸方向は不明瞭だが、後述するSB02と柱通りが平行していることから本遺構も梁行が2間、桁行3間以上と推察される。柱間距離は約1.6m～2.4m、柱穴の深さは約0.2m～0.4mと疎らであるが建て替えの痕跡は認められない。本遺構はSI01・SI05と重複関係にあるものの、帰属時期を示す遺物はなく遺物から各遺構の前後関係を確認することはできない。しかし、SB01－P5とSI05の切り合い関係からSB01はSI05より古いと判断できる。

出土遺物　非掲載遺物として、胴部下部に手持ちヘラケズリ調整を施したロクロ土師器の杯（P3より出土）などが確認されている。本遺構は8世紀後葉以降に属すると推測される。

SK04

形態・規模　調査区南側、SI01とSB01－P3の間に位置する土坑である。平面形は円形を呈すると考えられ、直径は約0.8m、深さは約0.3mである。この遺構の北側はSB01－P3の南側の一部を切っており、またSK04南側の一部はSI01によって破壊されている。よって、これら遺構の新旧関係はSB01－P3→SK04→SI01と解釈できる。この遺構の時期を推定できる出土遺物はない。

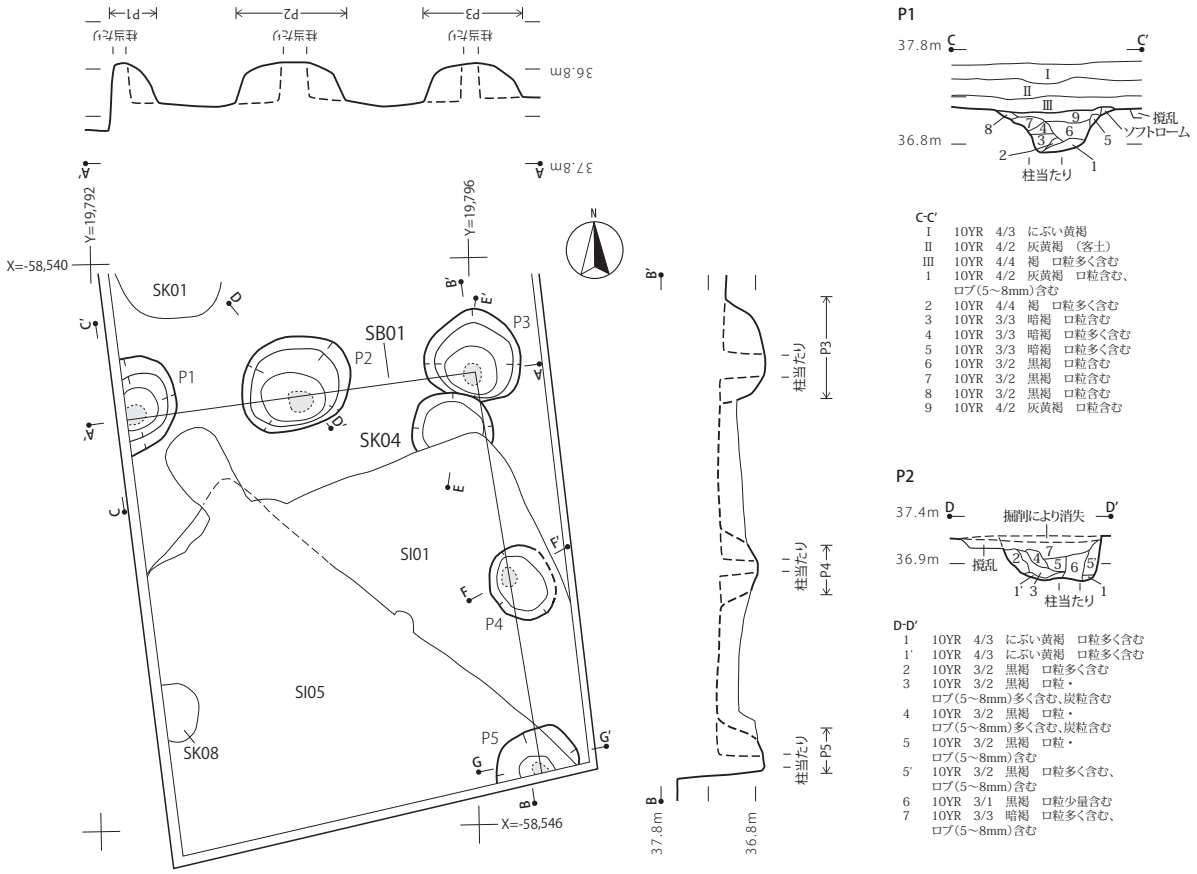
出土遺物　非掲載遺物として、土師器の甕や壺などが確認されている。

SB02（第14・15図、図版7・8・16）

形態・規模　調査区北側に位置する掘立柱建物跡で、西側は調査区外に続く。梁行2間、桁行3間以上、主軸方向は東西と考えられる。柱間距離は2.2m～2.8m、柱穴の深さは0.2m～0.7mと疎らである。SB02－P1は検出時、覆土にソフトロームが混じり撹乱のように思われたが掘方を確認すると垂直方向に明確に掘削した形状であることから人為的痕跡と判断した。平成29年度実施の確認調査の4トレンチ土層断面図を参照すると、SB02－P1に相当する位置にピットのような断面図が記載されていることから、確認調査時に遺構として取り扱われなかったものと推定される。またSB02－P2の掘方上端の大半は後述するSX01によって破壊されたと考えられる。さらにSB02－P3・SB02－P6では柱当たりが2つ確認されていることから、この遺構は最低1回の建て替えが行われたと想定される。

出土遺物　P3から1の胴部に焼成前穿孔を施した弥生土器の壺（久ヶ原式）と2の貝巣穴泥岩、P4から1のロクロ土師器杯（9世紀前葉～中葉）が出土している。P6からの出土遺物として、1は縄文時代晩期前葉と考えられる深鉢、2は横方向に条線を施した古墳時代後期の土師器甕（鬼高式）、3は7世紀の所産と考えられる須恵器の平瓶がある。また非掲載遺物としてはロクロ土師器の杯（P3より出土）、須恵器の平瓶（P6）などが出土している。本遺構はSB01と同時期に機能したと考えられ、また出土遺物から9世紀前葉以降に属すると推測される。

SB01・SK04



C-C′
I 10YR 4/3 にぶい黄褐
II 10YR 4/2 灰黄褐 (客土)
III 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む
1 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒含む、ロブ(5～8mm)含む
2 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒含む
4 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む
6 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む
7 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む
9 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒含む

D-D′
1 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む
1′ 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・ロブ(5～8mm)多く含む、炭粒含む
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・ロブ(5～8mm)多く含む、炭粒含む
5 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・ロブ(5～8mm)含む
5′ 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む、ロブ(5～8mm)含む
6 10YR 3/1 黒褐 ロ粒少量含む
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む、ロブ(5～8mm)含む

SB01・SK04 E-E′
1 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
3 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、焼粒少量含む しまり弱い 粘性なし
4 10YR 3/4 暗褐 ロ粒多く含む、焼粒少量含む しまり弱い 粘性なし
A 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
B 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
C 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む しまり弱い 粘性なし
D 10YR 3/3 暗褐 ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
E 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
F 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
G 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり
H 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・ロブ(5～8mm)含む しまりやや強い 粘性あり

F-F′
1 10YR 3/1 黒褐 ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり

G-G′
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・焼粒・炭粒含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・焼粒・炭粒・ロブ(5～8mm)含む しまり強い 粘性あり
3 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり

土層・遺構対応表(E-E′)

SK04	1, 2
SI01	3, 4
SB01-P3	A～H

土層・遺構対応表(G-G′)

SI05	1, 2
SB01-P5	3

0 2m
(1／80)

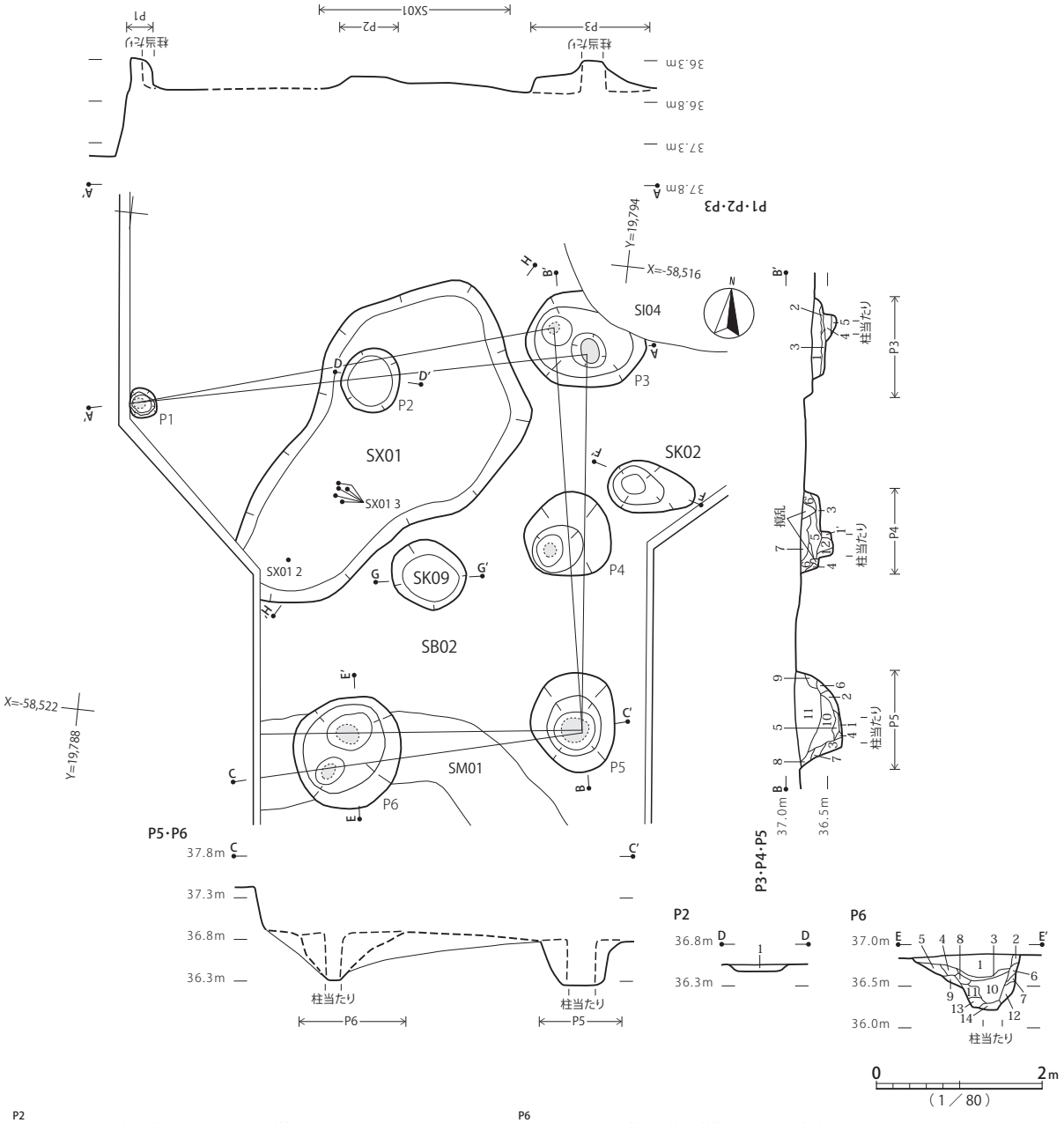
第13図　SB01・SK04 遺構実測図

方墳周溝

SM01（第16・17図、図版9・12・13・16）

形態・規模　調査区中央に位置する方墳周溝で、1辺の中央が外に膨らむ形状を呈する。外周遺構西側と南東角は調査区外に延び、南側周溝はSI02の貼床層の下から検出された。計測可能範囲では南北方向に約12m、推定範囲ではあるが、外周幅約13.5m、内周幅約10.5mの規模を復元できる。また掘方の深さは約0.4m～0.8mを測り、周溝北側の一部はSB02－P6によって破壊されている。さらに周溝南側調査区壁際には周溝内埋葬と考えられる遺構があり、検出範囲では長軸約1.1m、短

SB02・SK02・SK09・SX01



P2
1 10YR 2/2 黒褐 ロ粒含む しまりやや強い 粘性あり

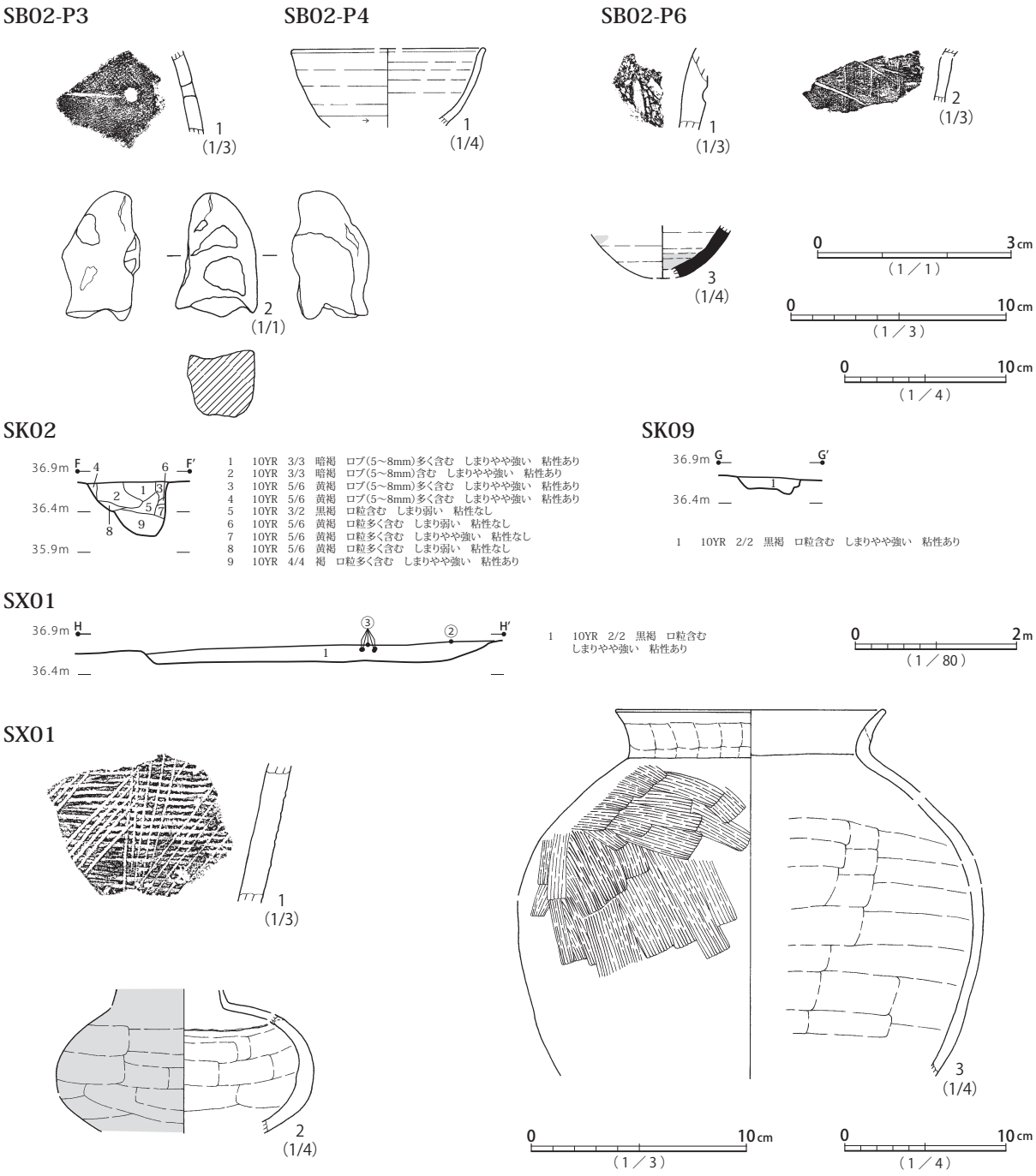
P3
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/4 褐 ロ粒・焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり

P4
1 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
1' 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む、焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 2/2 黒褐 焼粒含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
3 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む しまり弱い 粘性なし
5 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、ロブ(5～10mm)・焼粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
6' 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒・白粘粒多く含む、ロブ(5～10mm)・焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ(5～8mm)多く含む、白粘粒含む、焼粒少量含む 乳白色スリット状ブロック(5～8mm)多く含む しまり強い 粘性あり

P5
1 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
2 10YR 4/2 灰黄褐 ロブ(5～15mm)含む、焼粒含む しまり弱い 粘性なし
3 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
4 10YR 3/2 黒褐 ロ粒・焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
5 10YR 3/2 黒褐 ロブ(5～10mm)多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 5/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 4/3 にぶい黄褐 ロ粒多く含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 2/2 黒褐 ロブ(5～15mm)含む、焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 4/2 灰黄褐 ロ粒多く含む、焼粒含む、スコリア状乳白色ブロック(5～10mm)多く含む 白粘粒含む しまり強い 粘性あり

P6
1 10YR 6/2 灰黄褐 ロ粒・白粘粒・スコリア状乳白色ブロック(5～10mm)多く含む 焼粒少量含む しまり非常に強い 粘性あり
2 10YR 4/4 褐 ロ粒多く含む・スコリア状乳白色粒含む しまり強い 粘性あり
3 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む・白粘粒含む スコリア状乳白色粒 少量含む しまり強い 粘性あり
4 10YR 3/1 黒褐 ロ粒・白粘粒・焼粒含む しまり強い 粘性あり
5 10YR 3/3 暗褐 ロ粒多く含む しまりやや強い 粘性あり
6 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・白粘粒含む しまりやや強い 粘性あり
7 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・焼粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
8 10YR 3/2 黒褐 ロ粒含む 白粘粒・焼粒微量含む しまりやや強い 粘性あり
9 10YR 3/2 黒褐 ロ粒多く含む・焼粒含む しまりやや強い 粘性あり
10 10YR 3/3 暗褐 ロ粒・焼粒・ロブ(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
11 10YR 2/2 黒褐 ロ粒・焼粒・ロブ(5～10mm)含む しまりやや強い 粘性あり
12 10YR 2/2 黒褐 焼粒・ロブ(5～10mm)含む、ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
13 10YR 2/1 黒 焼粒・ロブ(5～10mm)含む ロ粒少量含む しまりやや強い 粘性あり
14 10YR 2/3 黒褐 ロ粒・ロブ(5～15mm)多く含む しまり強い 粘性あり

第14図 SB02 遺構実測図、SK02・SK09・SX01 遺構実測図(1)

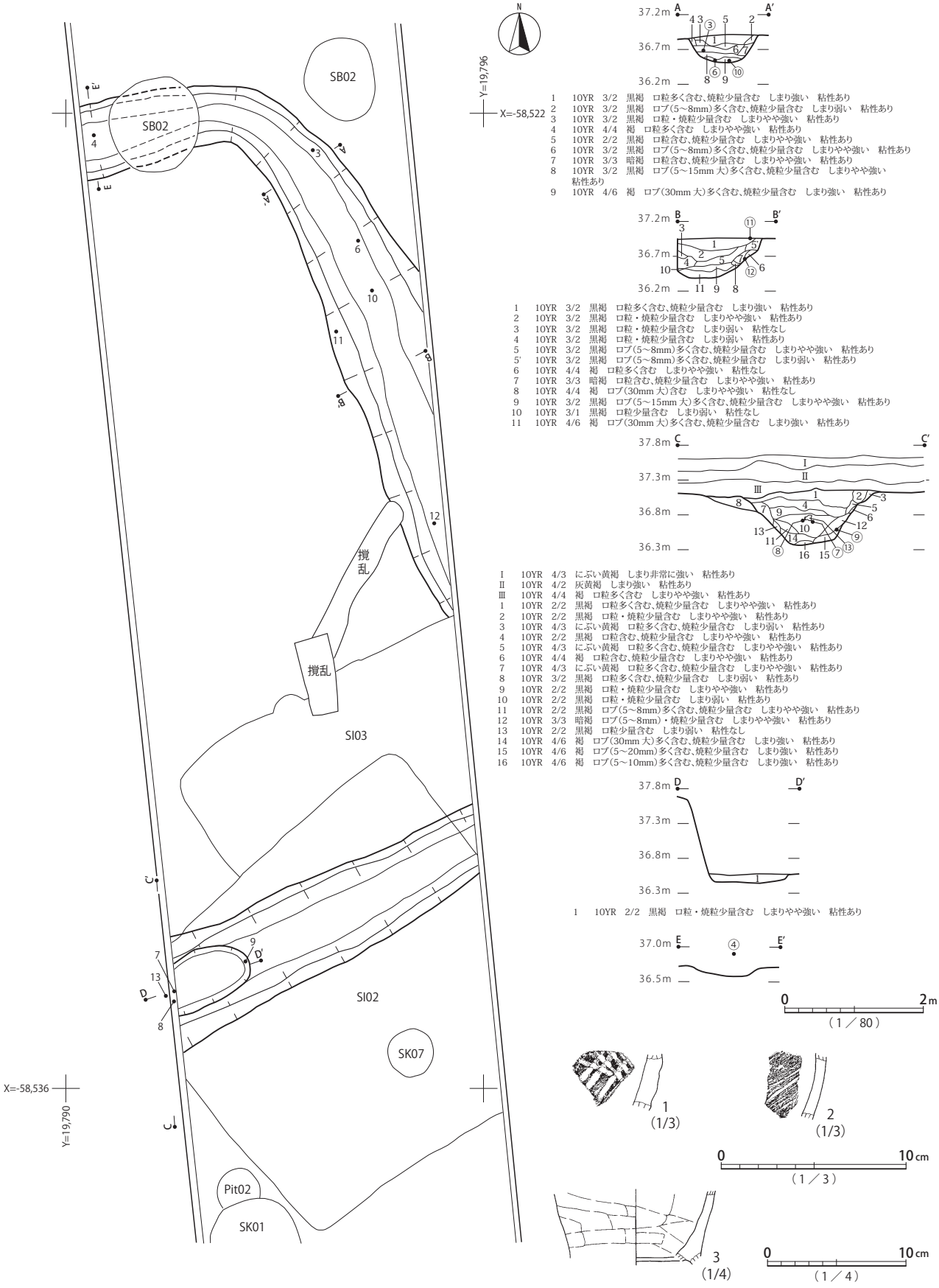


第15図　SK02・SK09・SX01 遺構実測図(2)、SB02・SX01 遺物実測図

軸約 0.8m を測る。土層断面（C－C'）をみると、ローム主体土の 7 層が急角度で切り込まれていることから、周溝が半分以上埋まった後に埋葬土坑を掘り込まれたと推測される。また、埋葬遺構中層では遺物集中が確認されている。一方、周溝内側に墳丘盛土及び埋葬施設は確認されず、また周溝内埋葬から木棺などの構造物は検出されなかった。

出土遺物　1 は早期中葉（三戸式）と考えられる縄文土器の深鉢、2 は条痕文が施文された縄文土器の深鉢、3 は弥生土器の鉢（山田橋式か）がある。4 から 13 は古墳時代前期前半の草刈 2 式に位置付けられ、4・5 は壺、6・7 は直口壺、8 は小型丸底系鉢、9 から 13 は小型壺である。6・8 を除いて底部穿孔されており、9 から 11 が焼成前、4・5・7・12・13 が焼成後に行われている。7・8・9・

SM01



1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり
2　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
4　10YR　4/4　褐　ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　2/2　黒褐　ロ粒含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～15mm 大)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
9　10YR　4/6　褐　ロブ(30mm 大)多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり

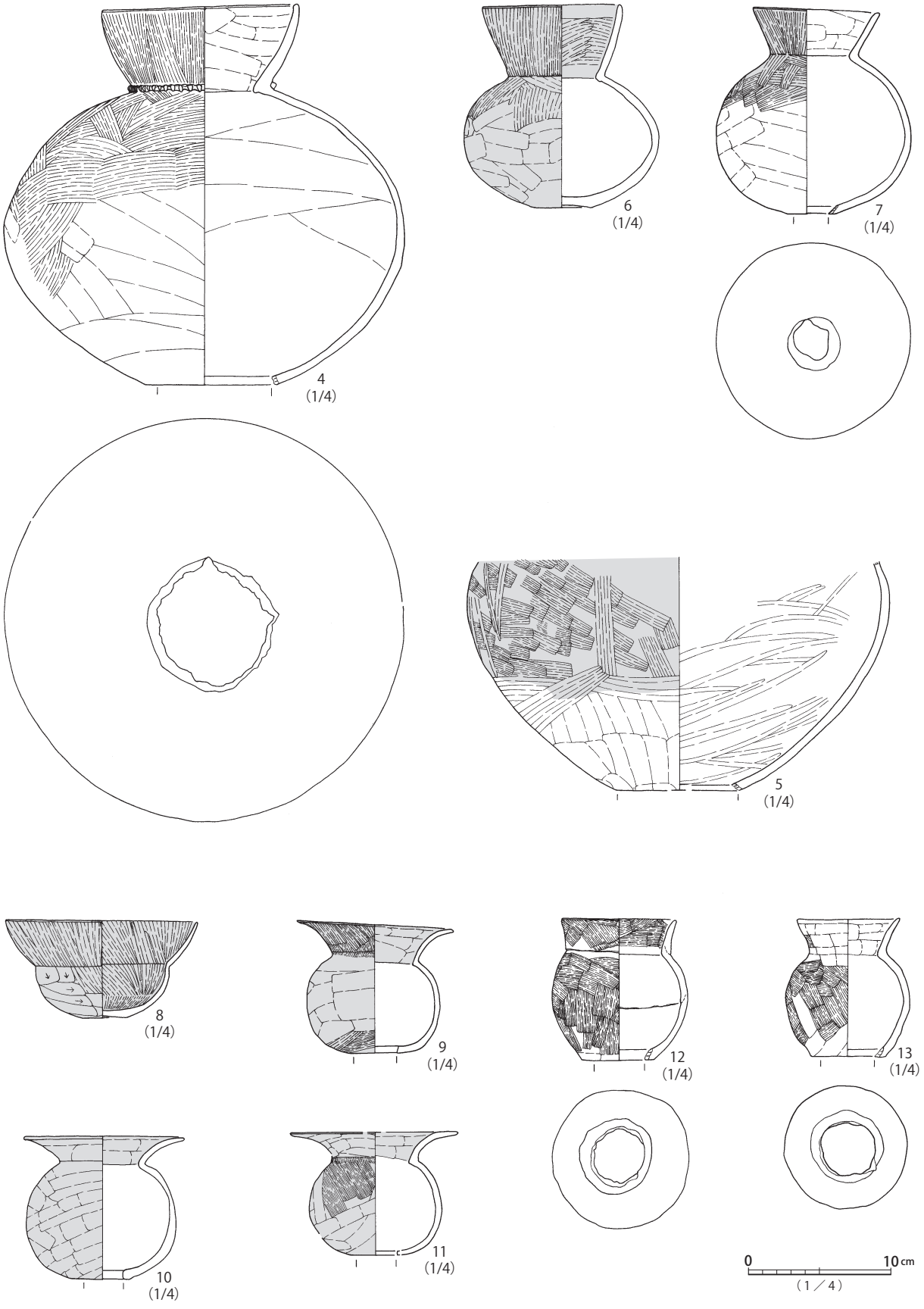
1　10YR　3/2　黒褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり
2　10YR　3/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　3/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまり弱い　粘性なし
4　10YR　3/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
5　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
5′　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
6　10YR　4/4　褐　ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性なし
7　10YR　3/3　暗褐　ロ粒含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　4/4　褐　ロブ(30mm 大)含む　しまりやや強い　粘性なし
9　10YR　3/2　黒褐　ロブ(5～15mm 大)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
10　10YR　3/1　黒褐　ロ粒少量含む　しまり弱い　粘性なし
11　10YR　4/6　褐　ロブ(30mm 大)多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり

Ⅰ　10YR　4/3　にぶい黄褐　しまり非常に強い　粘性あり
Ⅱ　10YR　4/2　灰黄褐　しまり強い　粘性あり
Ⅲ　10YR　4/4　褐　ロ粒多く含む　しまりやや強い　粘性あり
1　10YR　2/2　黒褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
2　10YR　2/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
3　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
4　10YR　2/2　黒褐　ロ粒含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
5　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
6　10YR　4/4　褐　ロ粒含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
7　10YR　4/3　にぶい黄褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
8　10YR　3/2　黒褐　ロ粒多く含む、焼粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
9　10YR　2/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
10　10YR　2/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまり弱い　粘性あり
11　10YR　2/2　黒褐　ロブ(5～8mm)多く含む、焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
12　10YR　3/3　暗褐　ロブ(5～8mm)・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり
13　10YR　2/2　黒褐　ロ粒少量含む　しまり弱い　粘性なし
14　10YR　4/6　褐　ロブ(30mm 大)多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり
15　10YR　4/6　褐　ロブ(5～20mm)多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり
16　10YR　4/6　褐　ロブ(5～10mm)多く含む、焼粒少量含む　しまり強い　粘性あり

1　10YR　2/2　黒褐　ロ粒・焼粒少量含む　しまりやや強い　粘性あり

第16図　SM01 遺構実測図、SM01 遺物実測図(1)

SM01



第17図　SM01 遺物実測図(2)

13 は周溝内埋葬の可能性がある土坑状の範囲の中層から検出されている。加えて SI02 出土の土師器小型壺（第 10 図 13）は SM01－13 に酷似し、両遺構は重複関係にあることから、本遺構に由来する遺物と考えられる。他に非掲載遺物として、弥生時代後期（山田橋式）の甕や古墳時代前期（草刈式）の土師器甕などがある。本遺構は古墳時代前期前半（草刈 2 式）に属すると考えられる。また周溝内埋葬周辺の遺物とその他周溝北東部周辺から出土した同時期の遺物との型式差は認められないことから、方墳築造後、比較的短期間のうちに土坑が掘られたと想定される。

遺物集中土坑、その他土坑・ピット

SX01・SK02・SK09（第 14・15 図、図版 10・11・13・16）

SX01

形態・規模　調査区北側、SB02 の柱列の中に位置する土坑状遺構である。不整形を呈し、掘り込みも約 0.25m と浅い。主軸方向は北東−南西であり、長軸と短軸はそれぞれ約 4.5m、約 2.6m を測る。本遺構の性格は不明ではあるが、様々な時代の遺物が多く検出されていることから、ゴミ穴など比較的新しい時期の遺構の可能性がある。

出土遺物　1 は縄文時代早期中葉（三戸式）と考えらえる深鉢、2 は古墳時代後期鬼高式（5 世紀末頃）の直口壺、3 は草刈式の土師器の甕である。また非掲載遺物として縄文時代後期の深鉢や古墳時代前期（草刈式）の甕などが確認されている。

SK02

形態・規模　SB02 の東隣に位置する土坑で、平面形は洋梨形を呈する。深さは約 0.6m、長軸約 1m、短軸約 0.6m を測り、柱痕跡・柱当たりは確認できない。本遺構からの出土遺物は確認されていない。

SK09

形態・規模　SB02 の柱列の内側、SX01 の南隣に位置する土坑である。円形を呈し、直径は約 0.8m、深さは約 0.2m と浅い。本遺構からの出土遺物は確認されていない。

SK01・SK03・Pit02（第 18 図、図版 10・16）

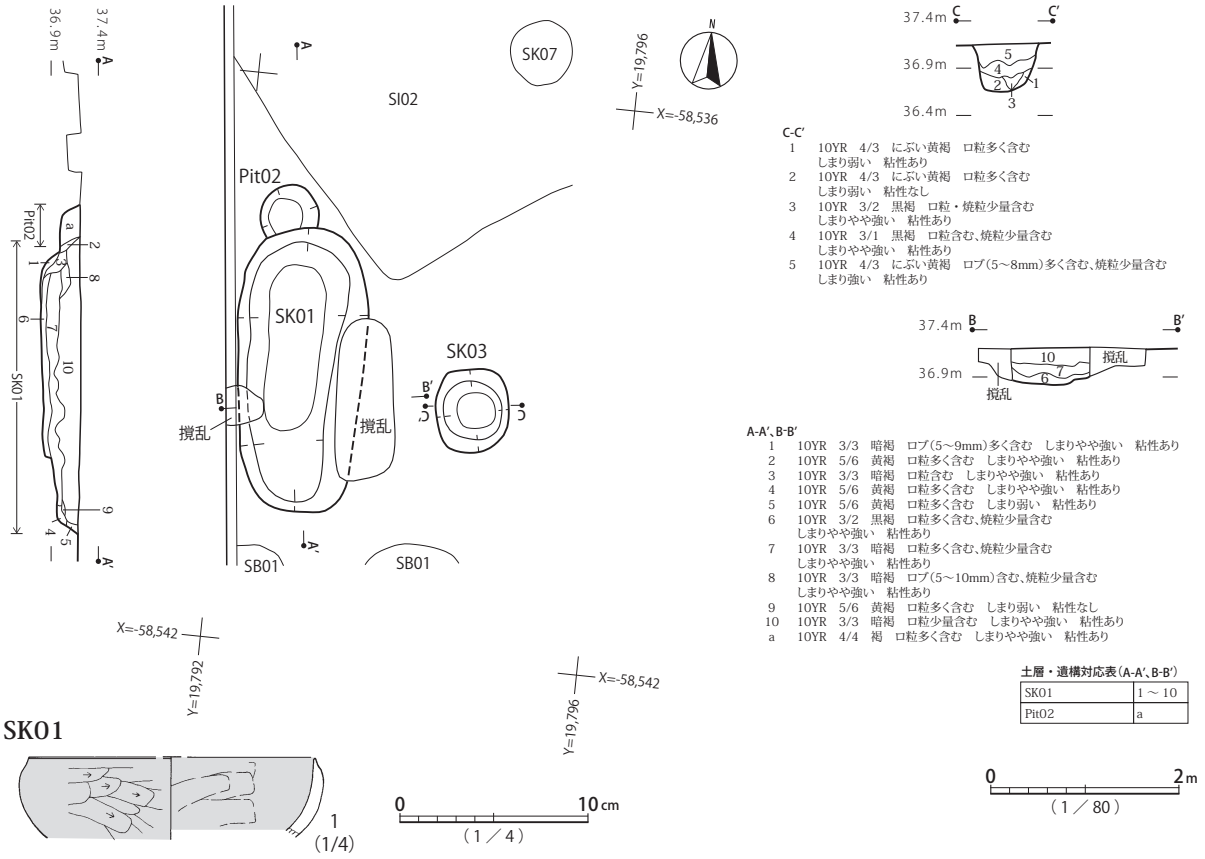
SK01・Pit02

形態・規模　調査区の南寄り、SI02 の南側に位置する土坑・ピットである。Pit02 の南側の一部は SK01 によって切られており、SK01 西側・東側の一部を後世の撹乱によって破壊されている。SK01 の主軸方向は南北であり、深さは約 0.4m、南北方向に 3m、東西方向に推定 1.4m を測る。Pit02 は直径約 0.6m の円形で深さは約 0.2m ある。

出土遺物　1 の土師器杯は SK01 出土遺物であり、古墳時代後期の鬼高式（5 世紀末～ 6 世紀初頭）と考えられる。SK01 の非掲載遺物として、古墳時代前期（草刈式）の土師器甕などが確認されている。一方、Pit02 からの出土遺物は確認されていない。

SK03

形態・規模　調査区の南寄り、SK01・Pit02 の東側に位置する土坑である。円形を呈し、直径と深さはそれぞれ約 0.8m、約 0.55m を測る。土層に柱痕跡は確認できず、柱当たりもないことから性格



第18図　SK01・SK03・Pit02 遺構実測図、SK01 遺物実測図

は不明である。

出土遺物　非掲載遺物として縄文時代後期（堀之内式）の深鉢や須恵器杯などが確認されている。

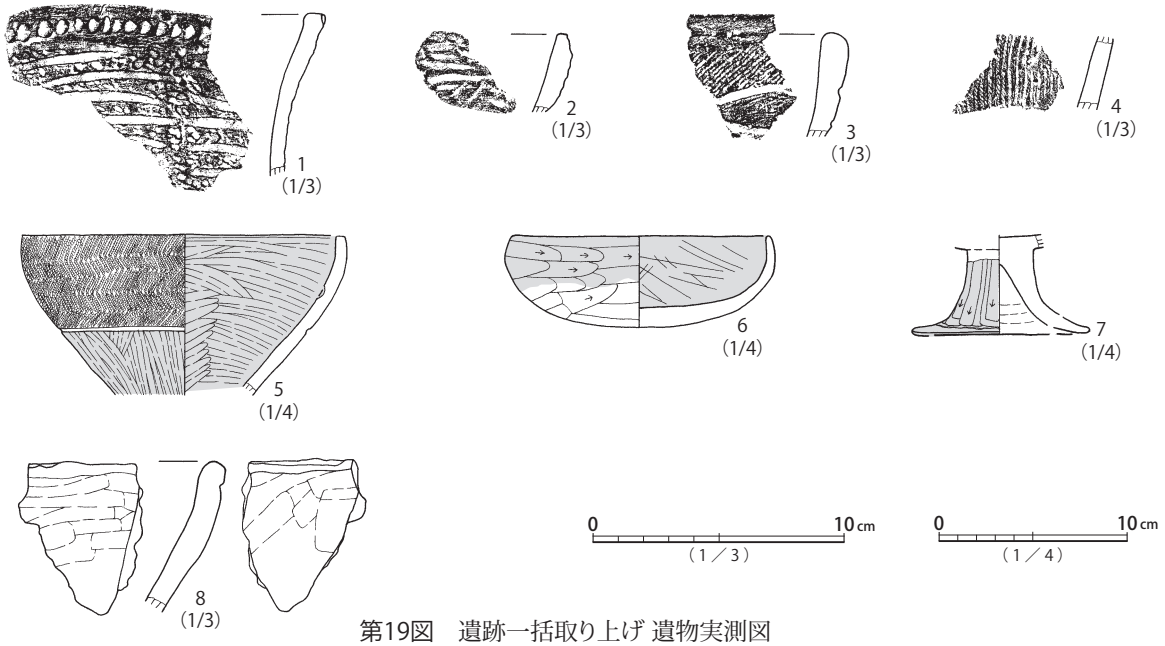
遺跡一括取り上げ遺物（第 19 図、図版 13・16）

1は縄文時代後期中葉（加曽利B式）の深鉢、2は縄文時代後期～晩期の深鉢、3は縄文時代晩期中葉の深鉢、4は縄文時代晩期後葉の深鉢、5は弥生時代後期（山田橋式）の鉢、6は古墳時代後期（鬼高式）の土師器杯で5世紀末～6世紀初頭の所産と思われる。7は古墳時代後期（鬼高式）の土師器高杯で5世紀末のもの、8は古墳時代後期（鬼高式）の土師器鉢である。また非掲載遺物として、縄文土器の深鉢（早期中葉～後期後葉）や内面に上総型暗文を施した土師器杯、灰釉陶器壺、中世陶器などが確認されている。

4　遺構の変遷

今回、縄文時代の遺構は検出されていないが、加曽利B式や前浦式など後期から晩期を中心とした土器が出土している。弥生時代については、久ヶ原式や山田橋式といった後期の土器が確認されており、明確ではないものの、平面形状からSI04は弥生時代の竪穴建物跡の可能性がある。古墳時代では、前期前半に方墳と周溝内埋葬が造られ、これらは草刈2式期に位置付けられる。それ以降の遺構や遺物は確認されておらず、中期後半頃（5世紀後半）になると甑や竈などの遺物が検出され

遺跡一括取り上げ



第19図　遺跡一括取り上げ 遺物実測図

るようになる。この様相は、この期間に遺跡周辺が墓域として利用されたことを示唆する。終末期には出土遺物から7世紀中葉～末に位置付けられるSI03が建造され、居住区域としての利用が再開する。奈良・平安時代に至ると、8世紀中葉頃にSI02が建てられ、掘立柱建物跡（SB01・SB02）も伴う。両掘立柱建物跡はおよそ25mを隔てて位置し、主軸方向も同じであることから同時期の遺構の可能性が高い。SB02－P3の裏込土から検出された平瓶片の存在からSB01・SB02の帰属年代は7世紀を上限とする。また両掘立柱建物跡の柱穴覆土内からロクロ土師器片が検出されており、さらに両掘立柱建物跡の間に竪穴建物跡が同時期存在する可能性も低いと想定すると、SB01・SB02は9世紀前葉以降の所産と考えられる。加えてSI05はSB01より新しくSI01より古い。SI01も9世紀前葉以降に帰属すると推定されるため、先行するSB01・SB02は9世紀前葉に築造され、廃絶後に間もなくSI05とSI01が順に建造されたと推測される。その他の土坑・ピットに関しては、出土遺物などから時期を特定することは困難であるが、概ね古墳時代から古代を中心にすると見られる。

5　まとめ

調査の結果、方墳1基、竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡2棟、遺物集中土坑1基、土坑9基、ピット2基が検出された。出土遺物や隣接する遺構の位置・重複関係から鑑みるに、方墳周溝（SM01）は古墳時代前期に作られ、その後、古墳時代終末期～奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡・掘立柱建物跡（SI01・SI02・SI03・SI05・SB01・SB02）が建設されたと考えられる。また調査区北側は中世以後に広く撹乱を受け遺構の様相が不明瞭になっている。

特徴的な遺物として、まずSM01出土土器が挙げられる。方墳周溝出土の壺類の表面にはハケメが確認されており、10mm当たりの条線が10本（第17図5・7・9・10・11）と7～8本（第17図4・12・13）に分けられる。前者はすべての表面が赤彩されており、特に9・10・11の3点は肉眼観察では水銀朱の可能性がある上に底部穿孔を焼成前に行っている。一方、後者の遺物のうち12と13は

同じ小型短頸壺であり、ハケメ条線本数や焼成後底部穿孔、表面調整方法など共通点が多くみられる。おそらく、この方墳に伴う壺類は同じ機会に製作され、水銀朱と見られる赤色顔料の使用や底部穿孔のタイミングには何等かの儀礼的背景が関係していた可能性がある。加えて周溝内埋葬に属すると考えられる壺（7・8・9・13）とその他の壺（4・5・6・10・11・12）は型式差がなく、比較的同時期に作られた可能性が高い。おそらく前者の壺類は周溝内埋葬、後者は方墳主体部由来と思われる。一方、両遺構の築造のタイミングには差があり、主体部由来の壺類が周溝内埋葬上から集中的に検出されたとも解釈可能である。また方墳の存在自体も古墳時代前期前半に近辺が墓域として利用されていたことを示す点で重要である。

さらに7世紀中葉～末の所産と考えられるSI03出土の鉄鋌（第11図6）も注目すべき資料である。この鉄鋌は軸部の断面が隅丸方形であり、基部と頸部の間が緩やかに反る形状、加えて茎部に木目痕と口巻痕が僅かに確認できることから、本来は数本を一組として使用していたものと思われ、魚津知克の分類に基づくと有茎式IIb類C形式に相当すると考えられる（魚津2010）。今回は1本のみ出土し、組み合わせで利用した他のパーツは確認されていないが、この形式の鉄鋌はこれまで静岡県以西で発見されているものであり、管見に触れる限りでは関東地方で初の出土例の可能性がある。[注1]またSI01から8世紀後葉と考えられる駿東型の土師器甕が確認されおり、これら外来系の遺物からは遺跡周辺地域における東京湾以西との断続的な交流を読み取ることができる。

今回の調査では古墳時代前期前半の方墳（SM01）築造以降に遺構希薄期間が続き、古墳時代終末期（SI03並行期）以後には居住域が展開するという遺跡周辺の土地利用の変遷の一端を捉えることができた。この傾向は近隣の姉崎東原遺跡でも見られる。姉崎古墳群の動向と照合すると、SM01は草刈2式期に位置付けられ、釈迦山古墳建造の前段階と考えられる。古墳時代前期と推定される姉崎天神山古墳は正確な築造時期が不明であり、令和5年度調査でも時期推定可能な遺物は検出されなかったため（川上2024）、SM01との前後関係は不明である。また古墳時代前期以降では、周辺で姉崎山王山古墳・鶴窪古墳（後期）などが築造されており、墓域としての利用が継続されたことが窺える。そして終末期になると台地南側に前方後方墳、六孫王原古墳が築造されことに加えて周辺には集落が拡がり、居住域としての土地利用が再開する（半田1997）。今回の調査でも同様に終末期以降の住居跡が確認され、奈良・平安時代に至る集落の消長は同調していたと推測される。ただし、今回の調査区は限られた面積であり、局所的な様相を捉えたにすぎない恐れもあるため、より具体的な変遷については周辺における今後の調査による資料の蓄積を期待したい。

（注1）鉄鋌については、山田俊輔氏（千葉大学）から御教示いただいた。

参考文献

魚津知克2010「古墳時代社会における鉄製漁労具副葬行為の意義」『遠古登攀　遠山昭登君追悼考古学論集』『遠古登攀』刊行会

川上知哉2024「姉崎天神山古墳・姉崎台遺跡・姉崎台城跡」『令和5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第64集　市原市教育委員会

近藤敏2018「姉崎台遺跡（第2地点）」『平成29年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第43集　市原市教育委員会

齊木誠2019「鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）」『平成30年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第46集　市原市教育委員会

高橋康男1990『市原市姉崎東原遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第37集

高橋康男1993『市原市姉崎東原遺跡B地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第51集

千葉県教育委員会1970『姉ヶ崎台遺跡発掘調査概要』立正大学博物館学講座研究小報3

半田堅三1997『市原市姉崎六孫王原遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第58集

第１表　土器観察表

凡例：寸法の（　）は現存値、？は推定復元値を示す。

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法（cm）				重量（g）	焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅				外面	内面	外面	内面	
7	14	SI01 1	SI01	SI001 5 一括	縄文土器	深鉢	口縁部・胴部	小片	－	（6.0）	－	－	54.0	普通	褐色の細粒を疎らに含む。	10YR 3/2 黒褐	10YR 4/3 にぶい黄褐	交差する沈線を斜方向に施文。	口縁部から下向き斜方向にナデ調整。	縄文後期後葉
7	12	SI01 2	SI01	SI001 3・4	土師器	甕	口縁部・胴部	1/3	28.9?	（11.4）	－	29.4?	570.7	良好	褐色の細粒を多く、海綿骨針を微量含む。	5YR 5/3 にぶい赤褐	5YR 5/3 にぶい赤褐	口縁部端部に小さい沈線。口縁部から括れ部まで横方向にナデ調整。胴部は縦方向のケズリ調整。	表面を主に横方向にナデ調整。	9 世紀前葉以降
7	14	SI01 3	SI01	SI001 20 一括	土師器	甕	口縁部・胴部	1/5	17.8?	（3.8）	－	18.0?	53.4	普通	雲母を疎らに含む。	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YRT 6/4 にぶい黄橙	口縁部から括れ部まで横方向にナデ調整。胴部を縦方向にハケ調整。	表面を主に横方向にナデ調整。	駿東型
7	14	SI01 4	SI01	SI001 20 一括	須恵器	甕	胴部	小片	－	（11.0）	－	－	197.9	良好	褐色の細粒を微量含む。	5Y 5/1 灰	5Y 5/1 灰	叩き痕跡あり。	横方向の磨り痕跡多数。表面は滑らか。	内面転用硯
10	14	SI02 1	SI02	SI002 1 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（2.7）	－	－	6.5	普通	白色細粒を疎らに含む。	5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/6 明赤褐	縄文を施紋後、横方向に沈線を施紋。	ナデ調整。	縄文早期中葉（田戸式）
10	14	SI02 2	SI02	SI002 1 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（2.6）	－	－	16.1	普通	白色細粒微量。胎土に繊維痕あり。	7.5Y 5/8 明褐	10Y 4/4 褐	横方向にナデ調整。	縦方向にナデ調整。	縄文早期後葉
10	14	SI02 3	SI02	SI002 1 一括	縄文土器	深鉢	口縁部・胴部	小片	－	（3.1）	－	－	20.6	良好	赤色細粒・海綿骨針を疎らに含む。	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 4/3 褐	横方向にナデ調整後に沈線を横に２条→斜方向に４条。	横方向にナデ調整。	縄文後期（堀之内式）
10	14	SI02 4	SI02	SI002 20 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（3.4）	－	－	12.6	普通	雲母を疎ら、海綿骨針を微量含む。	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	LR に縄文を施紋後、横方向に沈線。	ナデ調整。	縄文後期後葉
10	14	SI02 5	SI02	SI002 16 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（3.1）	－	－	13.5	良好	白色細粒を疎ら、雲母・赤色細粒を微量含む。	7.5YR 4/4 褐	7.5YR 4/4 褐	縄文を施紋後、斜方向に沈線。	縦方向にミガキ調整。	縄文後期後葉
10	14	SI02 6	SI02	SI002 16 一括	縄文土器	深鉢	口縁部・胴部	小片	－	（6.8）	－	－	97.9	良好	褐色の細粒を疎ら、海綿骨針を微量含む。	2.5YR 4/6 赤褐	2.5YR 4/6 赤褐	口縁部端部付近に RL の単節縄文。豚鼻沈線紋を施し、斜方向にミガキ調整。豚鼻沈線紋から斜方向に竹管紋。	横方向にミガキ調整。	波状口縁 縄文後期末（安行２式）
10	14	SI02 7	SI02	SI002 14 一括	縄文土器	深鉢	口縁部・胴部	小片	－	（4,5）	－	－	46.6	普通	黒色細粒を疎らに含む。	7.5YR 7/4 にぶい橙	5YR 6/6 橙	口縁部から斜方向に条痕文を施し、その後横方向に沈線。	横方向に平滑ナデ調整。	前浦式
10	14	SI02 8	SI02	SI002 16 一括	縄文土器	鉢類	口縁部・胴部	小片	－	（2.5）	－	－	15.8	良好	白色細粒・雲母を疎らに含む。	10YR 4/2 灰黄褐	10YR 4/2 灰黄褐	口縁部端部に竹管で波状紋様を施文。口縁部上面に沈線。波状紋様下部に RL の単節縄文を施し、その後横方向に沈線。	横方向に平滑ナデ調整。	縄文晩期？
10	14	SI02 9	SI02	SI002 19 一括	縄文土器	鉢類	口縁部・胴部	小片	－	（2.6）	－	－	14.8	普通	褐色の細粒を疎ら、赤色細粒を微量含む。	7.5YR 5/6 明褐	7.5YR 5/6 明褐	口縁を折り返し、その上面に横方向の条痕文。口縁部端部を摘まんで波状に整形。	横方向にナデ調整。	縄文晩期？
10	14	SI02 10	SI02	SI002 6 一括	縄文土器	鉢類	口縁部・胴部	小片	－	（3.2）	－	－	9.3	普通	黒色細粒を疎らに含む。	7.5YR 7/4 にぶい橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	口縁を折り返し、その上面に棒状工具に横方向に沈線を施紋。その後に押捺で施文。	縦方向にナデ整形。	縄文晩期？
10	14	SI02 11	SI02	SI002 16 一括	縄文土器	鉢類	胴部	小片	－	（3.5）	－	－	13.6	普通	褐色の細粒を微量含む。	5YR 6/4 にぶい橙～ 5YR 3/1 黒褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	LR の単節縄文の施文後に波状沈線２条を交差。	斜方向にナデ調整。	縄文晩期？
10	12	SI02 12	SI02	SI002 2	土師器	高杯	脚部、腕部	脚部一周、腕部 1/4	14.9?	8.1	9.2	15.2?	246.4	普通	海綿骨針・赤色細粒（シャモット状）を微量含む。	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 4/1 褐灰	腕部・脚部表面をケズリ調整。口縁部付近をやや直立方向に屈曲。	腕部内面はミガキ調整。内面黒色処理。脚部内面は横方向にナデ調整。	鬼高式（７世紀後半）
10	12	SI02 13	SI02	SI002 4・16 一括	土師器	直口壺	ほぼ完形	一周	7.6?	10.6	5.1?	9.0	25.8	弱い	赤色細粒（シャモット状）を多く含む。	7.5YR 3/3 暗褐	7.5YR 4/6 褐色	表面をナデ調整後にハケ調整。	頸部をハケ調整。胴部内面はナデ調整。	草刈式 ハケメ 8/10mm
10	14	SI02 14	SI02	SI002 14 一括	土師器	甕	口縁部・頸部	小片	－	（2.4）	－	－	10.7	良好	褐色の細粒・海綿骨針を微量含む。	5YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/4 にぶい橙	口縁部の端部上面を摘んで整形。頸部表面は横方向にナデ調整。	表面を主に横方向にナデ調整。	庄内系？
10	14	SI02 15	SI02	SI002 7 一括	土師器	甑	底部穿孔部の一部	1/8	－	（5.0）	6.0?	－	44.0	普通	黒雲母・海綿骨針を疎らに含む。	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	表面をナデ調整。	表面をナデ調整。	5 世紀後半 貼床層より出土

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法（cm）				重量（g）	焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅				外面	内面	外面	内面	
10	12	SI02 16	SI02	SI002 3	須恵器	杯	ほぼ完形	一周	11.0?	3.5	−	11.3	138.9	普通	白色細粒を疎らに含む。	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	ロクロ整形。外面底部砥石転用。	ロクロ整形。内面底部硯・砥石転用。	永田不入Ⅱ期（8 世紀中葉）回転底部ヘラ切り離し
10	14	SI02 17	SI02	SI002 13 一括	須恵器	杯	口縁部・胴部	小片	16.0?	（3.9）	−	16.0?	13.3	良好	褐色の細粒を疎らに含む。	2.5Y 5/1 黄灰	2.5Y 5/1 黄灰	ロクロ整形。	ロクロ整形。	陶邑産（7 世紀第 1 ～ 2 四半期）
10	14	SI02 18	SI02	SI002 13 一括	須恵器	壺類	口縁部・頸部	小片	−	（2.9）	−	−	6.2	普通	褐色の細粒を微量含む。	5Y 6/1 灰	5Y 6/1 灰	ロクロ整形。	ロクロ整形。	5 世紀後半床直の層より出土
10	14	SI02 19	SI02	SI002 7 一括	須恵器	甕	口縁部・胴部	小片	−	（2.0）	−	−	2.3	良好	褐色の細粒を微量含む。	2.5Y 4/1 灰	2.5Y 4/1 灰	口縁部下部に櫛描紋を施紋。	ロクロ整形。	5 世紀代貼床層から出土
11	15	SI03 1	SI03	SI003 15 一括・17 一括	土師器	杯	口縁部・胴部の一部	1/3	15.7?	（3.4）	−	16.0?	78.4	普通	雲母を疎ら、海綿骨針を微量含む。	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	ケズリ調整。	ミガキ調整。	鬼高式（7 世紀中葉）
11	15	SI03 2	SI03	SI003 1	須恵器	蓋	口縁部	1/8	13.6?	（2.1）	−	14.0?	13.3	良好	黒色細粒を微量含む。	2.5Y 6/4 浅黄	2.5Y 6/2 灰黄	ロクロ整形。自然釉？	ロクロ整形。	7 世紀第 3 四半期
12	15	SI04 1	SI04	SI004 2 一括	縄文土器	深鉢	口縁部	小片	−	（7.3）	−	−	85.2	良好	黒色細粒・白色細粒を疎らに、海綿骨針を微量含む。	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/6 橙	口縁を波状に整形。表面を磨消縄文を施紋。	表面を横方向にミガキ調整。	縄文晩期（安行 3a）
12	15	SI04 2	SI04	SI004 11 一括	土師器	高杯	脚部	一周	−	（5.6）	−	−	57.5	良好	海綿骨針を微量含む。	7.5YR 5/6 明褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	脚部表面を縦方向にミガキ調整。椀部を脚部に巻き付けるように整形。赤彩有り。	表面を横方向にナデ調整。	鬼高式床直出土
12	15	SI04 3	SI04	SI004 6 一括	土師器	杯	胴部	小片	−	（2.6）	−	−	6.9	普通	海綿骨針を疎らに含む。	2.5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	底部付近にかけて縦方向に条線あり、ヘラ記号。	ナデ調整。	
12	15	SI04 4	SI04	SI004 6 一括	土師器	不明	胴部	小片	−	（2.8）	−	−	3.2	良好	雲母を微量含む。	10YR 4/1 褐灰	10YR 6/2 灰黄褐	表面をケズリ調整。調整後に穿孔。	表面をナデ調整。	外来系の土師器か？
12	15	SI04 5	SI04	SI004 3 一括	中世陶器	片口鉢Ⅱ類	口縁部・胴部の一部	小片	−	（5.9）	−	−	83.1	良好	胎土に小石を多く含む。	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	2.5YR 6/6 橙	ナデ調整。	ナデ調整。	常滑産
12	15	SI04 6	SI04	SI004 11 一括	中世陶器	鉢類	胴部の一部	小片	−	（4.0）	−	−	25.0	良好	白色細粒を疎らに含む。	10YR 4/4 赤褐	2.5Y 5/1 黄灰	ナデ調整。	ナデ調整。	常滑産床直出土
15	16	SB02－P3 1	SB02－P3	SK012 1 一括	弥生土器	壺	胴部	小片	−	（3.8）	−	−	10.8	普通	雲母・海綿骨針を微量含む。	5YR 5/8 明赤褐	7.5YR 6/6 橙	羽状縄文と沈線を施紋し、その後に焼成前穿孔。残存部下部に赤彩あり。	横方向にナデ調整。	久ヶ原式
15	16	SB02－P4 1	SB02－P4	SK011 1 一括	ロクロ土師器	杯	胴部	小片	11.5?	（4.9）	−	12.1?	17.7	普通	白色細粒・海綿骨針を疎らに含む。	5YR 6/8 橙	5YR 6/8 橙	ロクロ整形。底部付近を回転ヘラケズリ。	ロクロ整形。	9 世紀前葉～中葉
15	16	SB02－P6 1	SB02－P6	SK009 1 一括	縄文土器	深鉢	胴部の一部	小片	−	（3.7）	−	−	12.2	普通	褐色の細粒を疎らに含む。	5YR 4/1 褐灰	5YR 6/6 橙	表面に棒状工具で幅 6mm 程の沈線を施紋。	ナデ調整。	縄文晩期前葉？
15	16	SB02－P6 2	SB02－P6	SK009 1 一括	土師器	甕	胴部	小片	−	（2.5）	−	−	11.0	普通	雲母を微量、白色細粒を疎らに含む。	5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/6 明赤褐	表面を縦方向にケズリ調整。その後に横方向に条線を施紋。	表面を横方向にナデ調整。	鬼高式
15	16	SB02－P6 3	SB02－P6	SK009 1 一括・SI004 1	須恵器	平瓶	胴部	1/2	−	（3.6）	−	−	51.5	良好	白色細粒を疎らに含む。	5Y 4/3 暗オリーブ	5Y 5/2 灰オリーブ	ロクロ整形後に左方向の回転ヘラケズリ。一部に自然釉。	ロクロ整形。底部に自然釉。	7 世紀
16	16	SM01 1	SM01	SS001 21 一括	縄文土器	深鉢	口縁部	小片	−	（3.0）	−	−	6.8	普通	白色細粒を疎らに含む。	5YR 5/6 明赤褐	−	右上から左下方向に沈線を施文後、交差方向に沈線を施文。	破損。	早期中葉（三戸式）
16	16	SM01 2	SM01	SS001 26 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	−	（3.5）	−	−	5.8	普通	雲母・白色細粒を微量含む。	10YR 5/4 にぶい黄褐	10YR 3/2 黒褐	斜め方向に条痕文を密に施文。	縦方向にナデ調整。	細密条痕文か
16	16	SM01 3	SM01	SS001 10	弥生土器	鉢	底部・胴部の一部	小片	−	（5.2）	9.5?	−	56.4	普通	雲母を疎ら、白色細粒を多く含む。	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 5/4 にぶい褐	横方向にナデ調整。	横方向にナデ調整。	山田橋式？
17	12	SM01 4	SM01	SS001 2・SS001 1 一括	土師器	壺	口縁部・頸部、胴部 2/3	2/3	13.5	26.4	9.0	27.9	1460.0	普通	海綿骨針を微量、雲母を疎らに含む。	5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/6 明赤褐	頸部・胴部上部表面をミガキ調整。部分的にハケメ痕跡。胴部下部から底部にかけて表面をナデ調整。括れ部に連続する押捺装飾あり。	頸部・胴部表面を主に横方向にナデ調整。	焼成後底部穿孔。草刈式。ハケメ 6 本 /8mm

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法（cm）				重量（g）	焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅				外面	内面	外面	内面	
17	12	SM01 5	SM01	SS001 20 一括	土師器	壺	胴部	1/4	－	（15.9）	8.5?	29.4?	599.8	良好	海綿骨針を微量、雲母を疎らに含む。	2.5YR 5/8 明赤褐	2.5YR 5/6 明赤褐	表面をナデ調整後に、胴部に主に横方向にハケ調整。ハケ調整後にミガキ調整を施す。赤彩有り。	ミガキ調整。	焼成後底部穿孔。 ハケメ 5 本 /5mm
17	12	SM01 6	SM01	SS001 11	土師器	直口壺	完形	一周	9.5	14.2	4.0	13.5	502.4	普通	海綿骨針を微量含む。	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	頸部・胴部上部表面をミガキ調整。胴部下部から底部にかけて表面をナデ調整。赤彩有り。	頸部表面を主に横方向にミガキ調整。頸部に赤彩有り。	草刈式
17	12	SM01 7	SM01	SS001 16	土師器	直口壺	完形	一周	8.4	14.4	3.7	13.6	421.7	普通	海綿骨針を微量、雲母を疎らに含む。	7.5YR 4/6 褐	7.5YR 5/6 明褐	頸部表面を縦方向にミガキ調整。胴部上部はハケ調整後にミガキ調整。胴部下部から底部にかけてナデ調整。頸部から胴部上部に赤彩有り。	頸部表面を主に横方向にナデ調整。	焼成後底部穿孔。草刈式。 ハケメ 10 本 /10mm
17	12	SM01 8	SM01	SS001 17	土師器	小型丸底系鉢	完形	一周	13.1	6.9	3.1	13.3	160.3	良好	白色細粒・海綿骨針を微量含む。	5YR 4/6 赤褐	5YR 4/8 赤褐	表面を縦方向にミガキ調整。胴部はミガキ調整後にケズリ調整。赤彩有り。	表面を縦方向にミガキ調整。赤彩有り。	草刈 2 式
17	12	SM01 9	SM01	SS001 14	土師器	小型丸底系壺	完形	一周	11.0	9.1	3.0	9.5	232.9	普通	海綿骨針を微量、赤色細粒（シャモット状）を疎らに含む。	10YR 4/6 褐	10YR 4/4 褐	頸部にハケメ。胴部はハケ調整後に横方向にナデ調整。赤彩有り（水銀朱の可能性）。	表面を横方向にナデ調整。頸部に赤彩有り（水銀朱の可能性）。	焼成前に底部穿孔。二重口縁壺を模したか。草刈式。ハケメ 10 本 /10mm
17	13	SM01 10	SM01	SS001 12、 22 一括、 全体一括	土師器	小型丸底系壺	胴部、頸部・口縁部の半分	一周	11.0	9.9	4.6	11.2	213.7	良好	海綿骨針を微量、赤色細粒（シャモット状）を疎らに含む。	7.5YR 4/6 褐	2.5YR 3/6 暗赤褐	表面を主に横方向にナデ調整。赤彩有り（水銀朱の可能性）。	表面を主に横方向にナデ調整。頸部に赤彩有り（水銀朱の可能性）。	焼成前に底部穿孔。二重口縁壺を模したか。草刈式。ハケメ 5 本 /5mm
17	13	SM01 11	SM01	SS001 4、 22 一括	土師器	小型丸底系壺	胴部、頸部・口縁部の 1/3	一周	11.5?	8.6	－	11.7?	171.6	良好	海綿骨針を微量、赤色細粒（シャモット状）を多く含む。	2.5YR 4/6 赤褐～ 7.5YR 5/3 にぶい褐	2.5YR 4/6 赤褐～ 7.5YR 5/3 にぶい褐	胴部に斜め方向にハケメ。胴部下半のナデによりハケメ不明瞭。全体的に赤彩有り（水銀朱の可能性）。	表面を主に横方向にナデ調整。頸部に赤彩有り（水銀朱の可能性）。	焼成前に底部穿孔。二重口縁壺を模したか。草刈式。ハケメ 13 本 /13mm
17	13	SM01 12	SM01	SS001 18	土師器	小型短頸壺	ほぼ完形	一周	7.8	10.0	5.0	9.4	233.8	普通	海綿骨針を微量、赤色細粒（シャモット状）を多く含む。	7.5YR 4/6 褐	7.5YR 4/6 褐	頸部・胴部にハケメ。その後に部分的にヘラミガキ調整。底部付近は横方向にナデ調整。頸部～胴部の括れ部に段あり。	頸部にハケメ。。胴部に輪積みの痕跡あり。	焼成後底部穿孔。草刈式。 ハケメ 8 本 /10mm
17	13	SM01 13	SM01	SS001 19	土師器	小型短頸壺	ほぼ完形	一周	7.2	9.5	5.2	8.2	178.3	普通	海綿骨針を微量、赤色細粒（シャモット状）を多く含む。	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	胴部にハケメ。その上から部分的にヘラミガキ。頸部は主に横方向にナデ調整。	頸部表面を主に横方向にナデ調整。	焼成後底部穿孔。草刈式。 ハケメ 8 本 /10mm
15	16	SX01 1	SX01	SX001 1 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（6.5）	－	－	83.3	普通	雲母微量、白色細粒疎らに含む。	7.5YR 5/4 にぶい褐～ 7.5YR 3/3 暗褐	7.5YR 4/6 褐	横、縦、斜めの順番に線条紋を施文。	縦方向にケズリ痕跡あり。	早期中葉（三戸式）
15	13	SX01 2	SX01	SX001 9・ ゼンタイ一括	土師器	直口壺	胴部	一周	－	（7.8）	－	16.0	352.8	普通	海綿骨針を微量、雲母を疎らに含む。	5YR 6/6 橙	5YR 6/6 橙	表面を横方向にナデ調整。赤彩有り。	表面を横方向にナデ調整。胴部上部に頸部取り付け痕跡あり。	鬼高式（5 世紀末）
15	13	SX01 3	SX01	SX001 1 一括、 SX001 12、 SX001 13、 SX001 11、 SX001 6、 SX001 10、 ゼンタイ一括	土師器	甕	口縁部・頸部・胴部	一周	16.4?	（22.6）	－	29.0?	1043.0	普通	赤色細粒（シャモット状）・白色細粒を疎らに含む。	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 6/6 橙	頸部を縦方向にナデ調整。胴部表面はハケ調整。	表面を横方向にナデ調整。	草刈式 輪積み痕あり
18	16	SK01 1	SK01	SK008 5 一括	土師器	杯	口縁部、胴部	1/5	15.0?	（4.2）	－	16.0?	24.9	普通	海綿骨針・雲母を微量含む。	2.5YR 5/6 明赤褐	2.5YR 5/6 明赤褐	表面をケズリ調整。赤彩有り。	表面をナデ調整。赤彩有り。	鬼高式（5 世紀末～ 6 世紀初頭）
12	16	SK06 1	SK06	SK018 1 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（2.7）	－	－	10.0	普通	海綿骨針・雲母を微量含む。	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 2/2 黒褐	縦方向に単節縄文 RL の撚糸紋を施文。	表面を横方向にナデ調整。黒色処理。	縄文晩期末
12	16	Pit01 1	Pit01	Pit001 1	土師器	甕	口縁部・頸部	1/5	15.5?	（3.6）	－	－	35.5	普通	小石を多く含む。	5YR 6/6 橙	5YR 5/6 明赤褐	頸部に斜方向のハケメを施し、ヨコナデ。上下部が横方向の沈線状。	頸部表面をハケメ調整。	草刈式

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法（cm）				重量（g）	焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高	底径	最大幅				外面	内面	外面	内面	
19	16	遺跡一括 1		ゼンタイ一括	縄文土器	深鉢	口縁部	小片	－	（6.3）	－	－	54.3	普通	褐色の細粒を疎らに含む。	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	口縁部端部に押捺による施文。口縁部から胴部にかけて横方向に沈線紋。	横方向にミガキ調整。	加曾利 B 式
19	16	遺跡一括 2		ゼンタイ一括	縄文土器	深鉢	口縁部	小片	－	（3.1）	－	－	10.3	普通	白色細粒を微量、雲母を疎らに含む。	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	横方向に 5 条の沈線を施文。	表面をナデ調整。	縄文後期～晩期
19	16	遺跡一括 3		ゼンタイ一括	縄文土器	深鉢	口縁部	小片	－	（4.0）	－	－	22.5	普通	雲母を微量・黒色細粒を少量含む。	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	口縁部下部に単節縄文 LR を施し、その下部に 2 条の沈線あり。	表面を横方向にナデ調整。	縄文晩期中葉
19	16	遺跡一括 4		ゼンタイ一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（2.9）	－	－	12.7	普通	白色細粒を微量含む。	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 2/2 黒褐	縦方向に単節縄文 RL の撚糸文を施文。	ナデ調整。表面が黒色に変色している。	縄文晩期後葉
19	16	遺跡一括 5		ゼンタイ一括	弥生土器	鉢	口縁部・胴部の一部	1/5	17.0?	（8.4）	－	17.2?	109.9	良好	赤色細粒（シャモット状）を疎ら、海綿骨針を微量含む。	5YR 6/6 橙	5YR 4/4 にぶい赤褐	口縁部から胴部中部にかけて LR、RL の順に交互に単節縄文を施紋。胴部下部は主に縦方向のミガキ調整を施し、赤彩。	表面を主に横方向にミガキ調整を施し、全面を赤彩。	山田橋式
19	13	遺跡一括 6		ゼンタイ一括	土師器	杯	底部、胴部・口縁部の大半	3/4	13.6	4.8	－	14.3	226.3	良好	海綿骨針を疎らに含む。	5YR 4/8 赤褐	5YR 5/8 明赤褐	表面を横方向にケズリ調整。胴部下部にススス痕跡あり。胴部上部に赤彩有り。	内面を横方向にナデ調整。暗文を施文。全体に赤彩あり。	鬼高式（5 世紀末～ 6 世紀初頭）
19	13	遺跡一括 7		ゼンタイ一括	土師器	高杯	脚部	1/5	－	（5.2）	－	－	101.0	普通	雲母を微量含む。	2.5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/6 明赤褐	脚部表面を縦方向にケズリ調整。底部付近括れ部に細い溝。赤彩あり。	表面を主に横方向にナデ調整。	鬼高式（5 世紀末）
19	16	遺跡一括 8		ゼンタイ一括	土師器	鉢	口縁部	小片	－	（6.0）	－	－	39.5	普通	雲母を疎らに含む。	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 7/6 橙	表面を主に横方向にナデ調整。	表面をナデ調整。	鬼高式

第 2 表　土製品観察表

凡例：寸法の（　）は現存値、？は推定復元値を示す。

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	寸法（cm）			重量（g）	胎土	色調	焼成	備考
						長さ	幅	厚さ					
7	14	SI01 6	SI01	SI001 2	支脚	（8.4）	7.3	7.5	419.3	白色細粒・海綿骨針を疎らに含む。	7.5YR 6/4 にぶい橙	普通	底部残存。表面全面をナデ整形。
11	15	SI03 3	SI03	SI003 4	支脚	16.3	6.3	6.1	611.2	白色細粒を疎らに含む。	10YR 5/4 にぶい黄褐	普通	頂部・底部残存。表面全面をナデ整形。

第 3 表　石製品観察表

凡例：寸法の（　）は現存値、？は推定復元値を示す。

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	寸法（cm）			重量（g）	色調	備考
						長さ（長軸）	幅（短軸）	厚さ（高さ）			
7	14	SI01 5	SI01	SI001 5 一括	貝巣穴泥岩	2.2	1.7	0.5	1.9	7.5YR 8/3 浅黄橙	
7	14	SI01 7	SI01	SI001 1	砥石	（18.4）	（8.5）	（4.3）	501.1	10YR 6/3 にぶい黄橙	上面・下面・裏面は破損。残存部表面に主に縦方向に擦痕あり。
11	15	SI03 4	Si03	SI003 12 一括	貝巣穴泥岩	2.3	2.2	1.5	3.7	10YR 7/3 にぶい黄橙	
15	16	SB02－P3 2	SB02－P3	SK012 1 一括	貝巣穴泥岩	2.0	1.3	1.1	3.2	10YR 8/2 灰白	

第 4 表　鉄・青銅製品観察表

凡例：寸法の（　）は現存値、？は推定復元値を示す。

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構番号	注記	種別	寸法（cm）			重量（g）	備考
						長さ（長径）	幅（短径）	厚さ		
7	14	SI01 8	SI01	SI001 11 一括	鉄滓	2.9	2.7	1.7	17.3	
11	15	SI03 5	SI003	SI003 2	鉄鏃	14.6	0.3 ～ 0.59	0.3 ～ 0.46	10.8	7 世紀中葉 茎から上身の中央部まで口巻痕跡あり。
11	15	SI03 6	SI03	SI003 3	鉄鋌	21.6	0.44 ～ 1.51	0.51 ～ 0.95	76.3	7 世紀後半～終末 茎部に木目痕と口巻痕跡が僅かにあり。

第 5 表　非掲載遺物一覧表

遺構番号	種別	器種	個数	重量（g）
SI01	縄文土器（後期後葉）	深鉢	1	22.1
	縄文土器（後期）	深鉢	10	158.9
	弥生土器（後期・久ヶ原式～山田橋式）	壺	1	2.2
	弥生土器	壺	19	92.8
	土師器（上総型暗文）	杯	1	3.4
	土師器（古墳後期～末期・鬼高式）	杯	1	13.2
	土師器	杯	61	420.9
	土師器	高杯	2	90.0
	土師器（草刈式）	甕	1	7.6
	土師器（鬼高式）	甕	3	217.5
	土師器	甕	343	3644.3
	土師器	小型甕	4	51.8
	土師器（中台式）	壺	1	20.0
	土師器	壺	21	163.8
	土師器（古墳中期～後期）	小型壺	1	16.3
	土師器	広口壺	1	16.9
	土師器	不明	121	235.1
	須恵器（東海産）	杯	3	8.0
	須恵器（永田不入産）	杯	1	10.8
	須恵器（永田不入産）	高台杯	1	9.2
	須恵器（永田不入産）	蓋	1	3.9
	埴輪	円筒埴輪	4	81.8
	土製品	支脚	4	69.7
	礫		5	83.4
	鉄滓		2	22.8
SI05	土師器	杯	3	13.1
	土師器	甕	7	139.1
	土師器	不明	10	9.7
SK08	土師器	甕	2	9.4
SI02	縄文土器（後期）	深鉢	36	474.7
	縄文土器（晩期中葉）	深鉢	4	85.6
	弥生土器	壺	21	164.5
	土師器	杯	102	727.4
	土師器	高杯	5	116.4
	土師器	鉢	1	12.6
	土師器（中台式）	甕	4	36.8
	土師器（草刈式）	甕	11	277.1
	土師器	甕	397	3718.0
	土師器	小型甕	3	46.3
	土師器（中台式）	壺	1	6.4
	土師器	壺	9	63.3
	土師器	甑	1	11.7
	土師器	不明	41	93.5
	須恵器	杯	3	16.6
	須恵器	蓋	3	10.6
	須恵器	甕	3	71.9
	須恵器	壺	2	32.4
	埴輪	円筒埴輪	1	10.0
	石器（黒曜石）	剥片	1	1.0
	礫		8	415.5
SI03	縄文土器（後期・堀之内式）	深鉢	1	5.4
	縄文土器（後期後葉）	深鉢	1	6.0
	縄文土器（後期）	鉢類	2	18.2
	土師器	杯	6	55.3
	土師器（古墳前期・草刈式）	甕	5	24.7
	土師器	甕	50	538.9
	土師器（古墳前期・草刈式）	壺	1	6.1
	土師器	壺	4	165.7
	土師器	不明	1	10.0
	礫		4	533.0
	炭化物			0.7

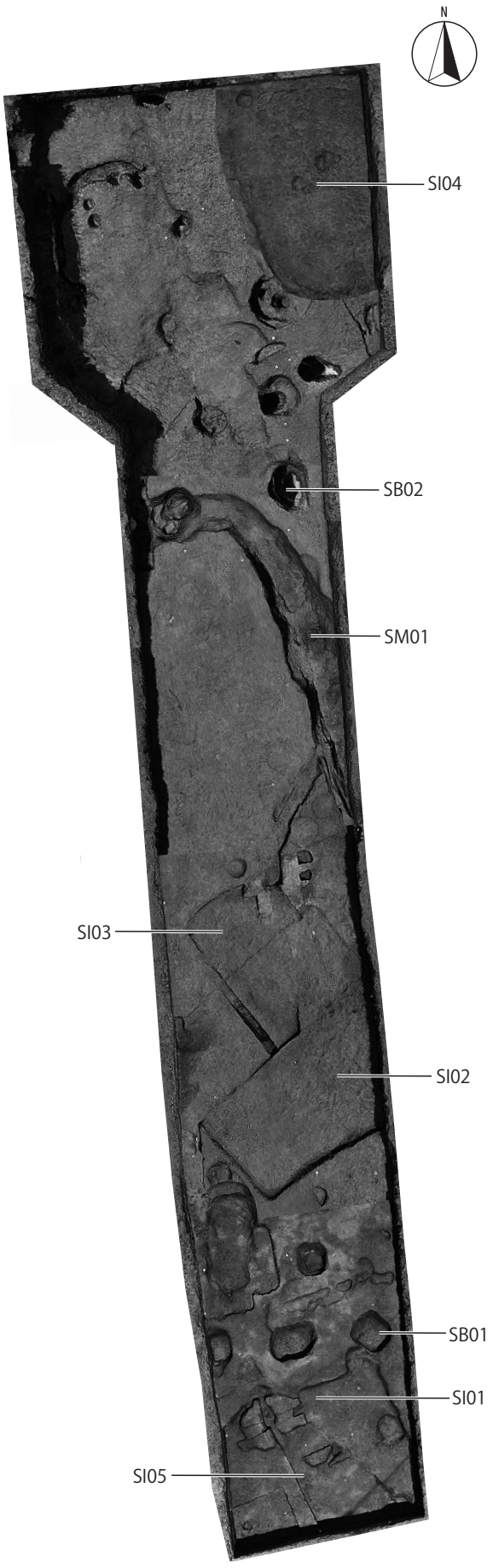
遺構番号		種別	器種	個数	重量（g）
SI04		縄文土器（早期後葉）	深鉢	1	43.2
		縄文土器（後期・称名寺Ⅰ式）	深鉢	2	20.3
		縄文土器（後期中葉～後葉）	小型壺？	1	2.7
		縄文土器（後期後葉）	深鉢	6	72.2
		縄文土器（後期後葉）	不明	2	18.3
		弥生土器	甕	2	15.3
		弥生土器	壺	4	44.6
		土師器	杯	32	142.9
		土師器（古墳後期～末期・鬼高式）	高杯	5	136.0
		土師器（古墳前期・草刈式）	甕	11	120.3
		土師器	甕	156	1857.1
		土師器	壺	14	115.5
		土師器（中台式）	直口壺	1	45.4
		土師器（古墳後期～末期・鬼高式）	小型壺	2	21.7
		土師器	小型壺	2	18.9
		土師器	不明	39	117.7
		須恵器（永田不入産）	杯	1	4.5
		須恵器（陶邑産）	蓋	2	12.4
		須恵器	蓋	1	6.6
		須恵器	甕	3	69.9
		須恵器	瓶壺	4	58.1
		中世陶器（常滑産）	鉢類	1	16.5
		礫		1	4.3
		鉄滓		1	8.6
SK05		縄文土器（後期）	深鉢	1	13.0
		土師器（古墳後期～末期・鬼高式）	杯	2	17.8
		土師器（古墳前期・草刈式）	甕	2	10.8
		土師器	甕	5	19.2
SK06		土師器	杯	2	10.4
		土師器（古墳前期・草刈式）	甕	6	41.2
		土師器	壺	4	20.9
		土師器	不明	2	6.2
		須恵器	蓋	1	2.9
Pit01		土師器	甕	1	2.5
SB01	P1	土師器	杯	2	7.6
		土師器	甕	8	34.6
		土師器	不明	1	5.5
		炭化物			1.3
	P2	土師器	甕	3	14.7
		土師器	壺	1	1.1
	P3	縄文土器（後期）	深鉢	1	3.5
		ロクロ土師器	杯	1	8.9
		土師器	甕	4	22.2
		礫		1	62.2
	P5	土師器	杯	1	1.7
		土師器	甕	8	29.3
SK04		土師器	壺	1	50.4
		土師器	甕	4	38.0
		土師器	不明	2	2.1

遺構番号		種別	器種	個数	重量（g）
SB02	P3	ロクロ土師器	杯	1	5.6
		土師器	甕	6	59.0
		土師器	不明	1	5.3
	P4	縄文土器（後期・堀之内式）	深鉢	2	17.4
		縄文土器（後期後葉）	深鉢	1	21.7
		土師器	杯	1	5.5
		土師器	甕	16	83.6
		土師器	壺	1	15.9
		土師器	不明	2	2.8
		須恵器	瓶壺	1	4.9
	P5	縄文土器（後期・堀之内式）	深鉢	1	20.9
		縄文土器（後期・加曽利Ｂ～安行２式）	深鉢	1	16.1
		縄文土器（後期後葉）	深鉢	1	6.1
		土師器	杯	1	1.8
		土師器	甕	9	116.8
		土師器	壺	1	6.4
	P6	縄文土器（後期後葉）	深鉢	1	2.8
		縄文土器（後期）	深鉢	3	15.0
		縄文土器（後期～晩期）	深鉢	1	10.8
		弥生土器	壺	3	17.5
		土師器	杯	7	31.7
		土師器	高杯	2	103.8
		土師器	甕	46	502.0
		土師器	壺	7	60.6
		土師器	不明	15	31.0
		須恵器	杯	1	5.8
		須恵器	甕	1	54.7
		須恵器	平瓶	1	16.5
		鉄滓		1	7.7
SM01		縄文土器（前期後葉）	深鉢	1	29.0
		縄文土器（後期・称名寺Ⅰ式）	深鉢	2	72.8
		縄文土器（後期・堀之内式）	深鉢	10	116.3
		縄文土器（後期前葉）	深鉢	1	9.7
		縄文土器（後期中葉）	深鉢	4	62.7
		縄文土器（後期中葉～後葉）	深鉢	3	36.8
		縄文土器（後期）	深鉢	17	384.3
		縄文土器（後期～晩期）	鉢類	1	8.4
		弥生土器	壺	5	22.4
		弥生土器（後期・山田橋式）	壺	1	38.8
		土師器	杯	7	29.5
		土師器	高杯	2	35.9
		土師器（古墳前期・草刈３式？）	甕	6	167.7
		土師器（古墳前期・中台式）	甕	1	12.5
		土師器（古墳前期・草刈式）	甕	5	96.6
		土師器	甕	56	626.3
		土師器	壺	8	140.6
		土師器	不明	35	85.3
		須恵器	杯	1	3.3
		土製品	不明	4	7.7
		礫		4	388.2

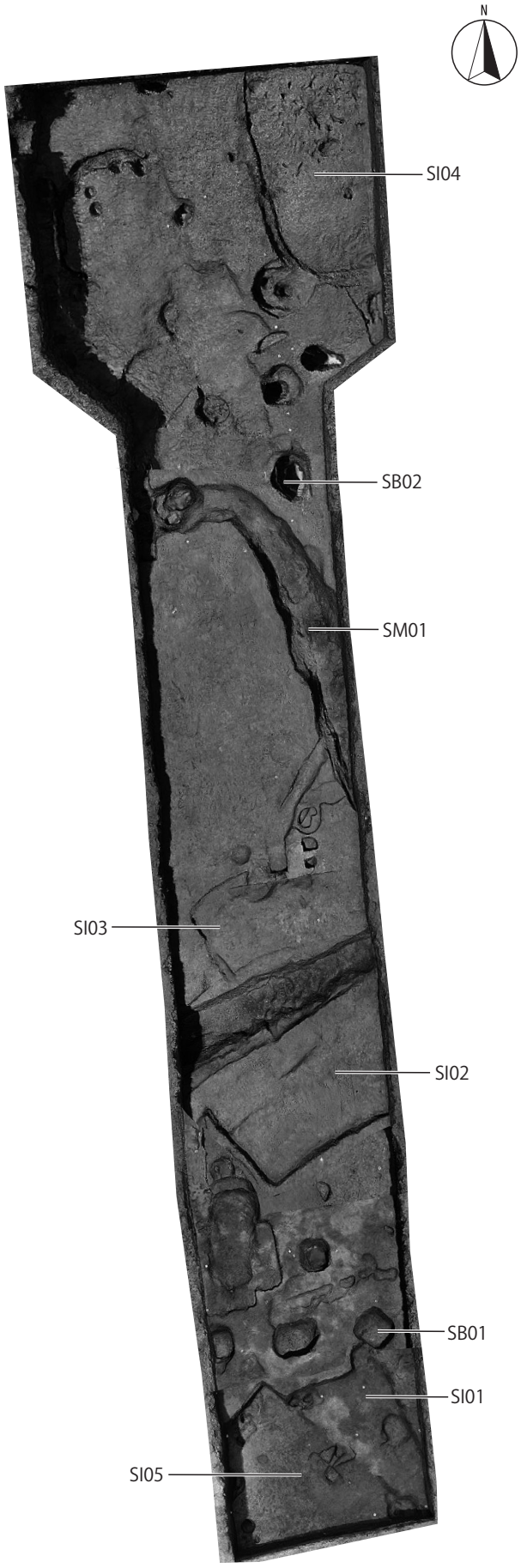
遺構番号	種別	器種	個数	重量（g）
SX01	縄文土器（早期中葉）	先鋭深鉢	1	64.2
	縄文土器（後期・加曽利Ｂ式）	深鉢	1	22.7
	縄文土器（後期後葉）	深鉢	1	18.3
	土師器	杯	5	23.2
	土師器	高杯	1	12.0
	土師器（中台式）	甕	1	24.3
	土師器（草刈式）	甕	17	219.2
	土師器	甕	26	315.8
	土師器	壺	1	27.0
	土師器	不明	4	8.8
SK01	縄文土器（後期）	深鉢	1	40.4
	土師器（古墳前期・草刈式）	甕	10	152.1
	土師器	甕	14	189.5
	土師器	壺	1	10.0
	土師器	不明	4	10.8
	石器	砥石？	1	13.9
	礫		1	2.0
SK03	縄文土器（後期・堀之内式）	深鉢	1	43.0
	弥生土器	壺	2	31.3
	土師器	甕	4	28.7
	土師器	不明	5	22.4
	須恵器	杯	1	4.4
遺跡一括（SI01・SB01－P5サブトレンチ）	土師器	杯	1	1.9
	土師器	甕	25	80.7
	土師器	壺	2	7.3
	須恵器	杯	1	6.4
遺跡一括	縄文土器（早期中葉？）	深鉢	1	25.3
	縄文土器（早期後葉）	深鉢	1	24.4
	縄文土器（後期・称名寺Ⅰ式）	深鉢	3	37.7
	縄文土器（後期・加曽利Ｂ式）	深鉢	1	38.1
	縄文土器（後期後葉）	深鉢	5	118.7
	縄文土器（後期）	深鉢	16	284.2
	弥生土器	深鉢	6	48.4
	土師器（上総型暗文）	杯	2	15.0
	土師器	杯	36	288.4
	土師器	高杯	2	37.5
	土師器（古墳前期・中台～草刈式）	甕	1	20.2
	土師器	甕	188	1013.9
	土師器	壺	5	32.1
	土師器	不明	30	92.7
	須恵器	杯	1	11.7
	須恵器	甕	1	32.5
	須恵器	蓋	2	8.9
	灰釉陶器	壺	1	20.2
	中世陶器	鉢類	1	45.0
	中世陶器	不明	2	7.9
	石器	被熱石	1	25.5
	礫		4	19.7

写真図版

姉崎台遺跡周辺航空写真（昭和36年撮影）



調査区全体　3 次元データ（オルソ画像）
（SM01・SI05 完掘前）



調査区全体　3 次元データ（オルソ画像）
（SM01・SI05 完掘後・SI04 貼床除去後）

0　5m
（1／150）

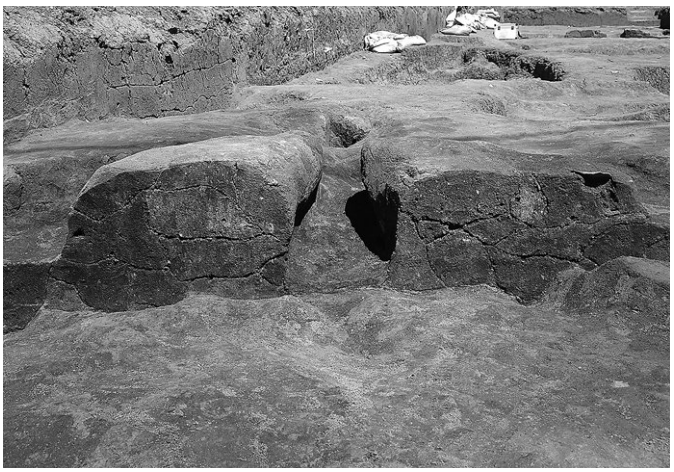
発掘前状況（南西から）

SI01　検出状況（東から）

SI01　掘削状況（東から）

SI01　カマド完掘（南から）

SI01　完掘状況（南から）



SI01　カマド半截状況（南から）

SI01　カマド掘方完掘（南から）

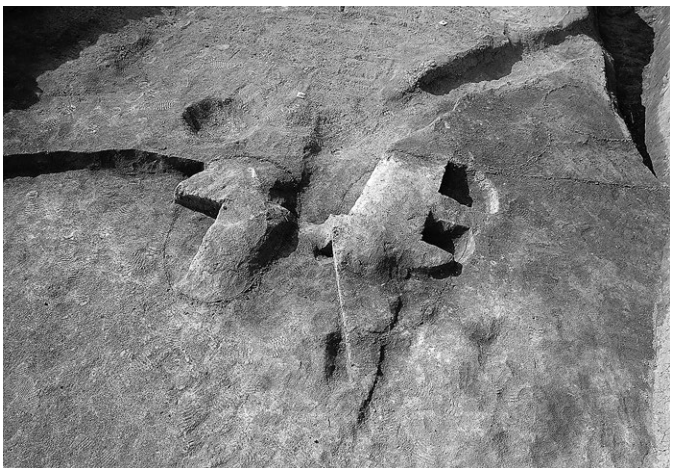
SI02　掘削状況（南から）

SI02・SI03　検出状況（東から）

SI02　完掘状況（西から）

SI03　完掘状況（南から）

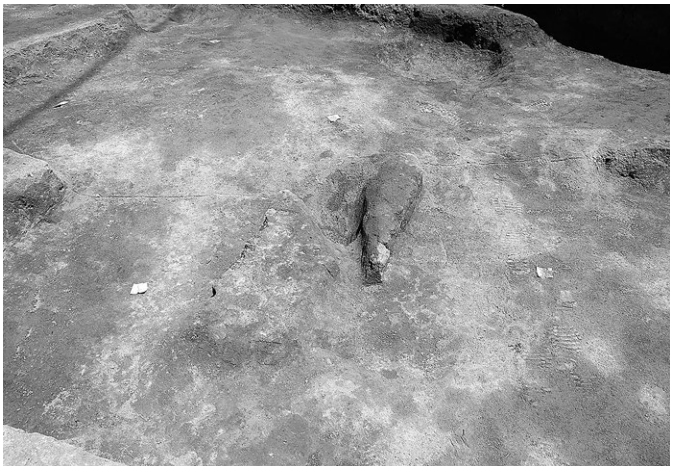
SI04　完掘状況（北から）



SI03　カマド完掘状況（南から）

SI04・SB02－P3・Pit01　検出状況（西から）

SI05　完掘状況（南西から）



SI05　カマド完掘状況（南西から）

SI05－P1　完掘状況（北東から）

SB01　完掘状況（北から）

SB01－P1　完掘状況（西から）

SB01－P2　完掘状況（西から）

SB01－P3　完掘状況（東から）

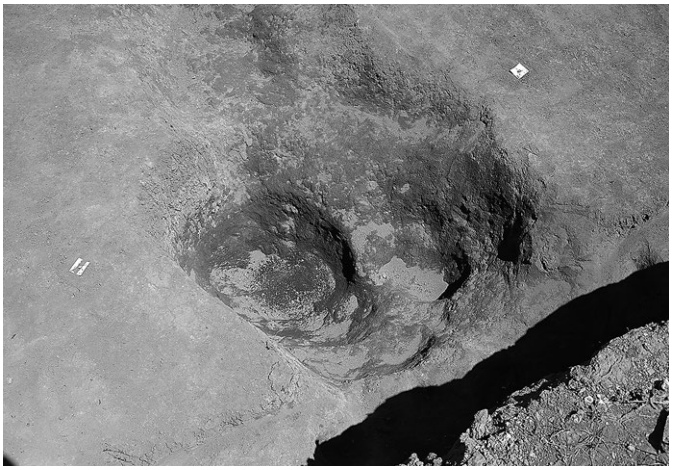
SB02－P1　完掘状況（東から）

SB02　完掘状況（東から）

SB02－P3　完掘状況（東から）

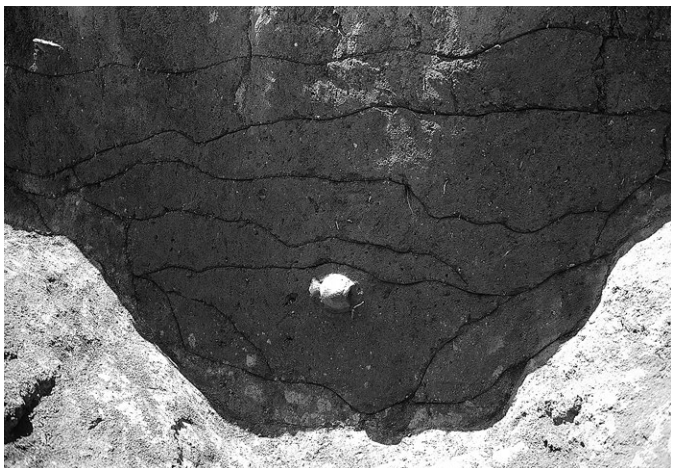
SB02－P4　完掘状況（東から）

SB02－P5　完掘状況（東から）



SB02－P6　完掘状況（西から）

SM01　検出状況（北東から）



SM01　周溝内埋葬　上層断面 C－C'（東から）・土器 7

SM01　周溝内埋葬　完掘状況（北から）

SM01　周溝北東部　土器 6・10 出土状況（南から）

SM01　完掘状況（北東から）

SX01　検出状況（西から）

SX01　完掘状況（南から）

SK01・Pit02　完掘状況（南から）

SK02　完掘状況（東から）

SK03　完掘状況（東から）

SK04　完掘状況（東から）

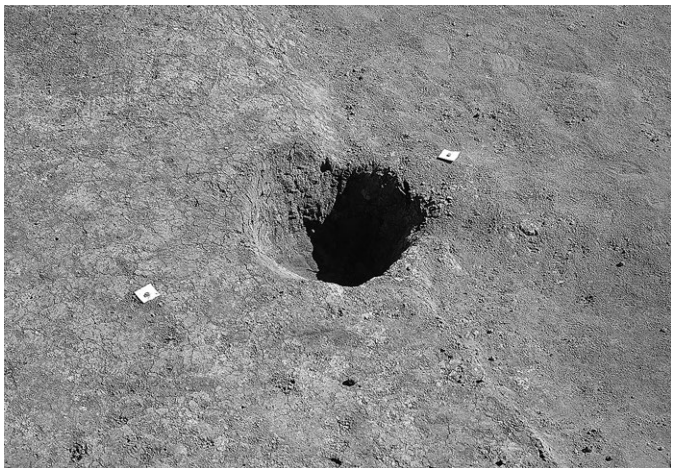
SK05　完掘状況（南から）

SK06　完掘状況（東から）

SK07　完掘状況（西から）

SK08　完掘状況（東から）

SK09　完掘状況（北から）



Pit01　完掘状況

調査区完掘状況（北から）

SI01－2

SI02-12

SI02－13

SI02－16

SM01－4

SM01－5

SM01－6

SM01－7

SM01－8

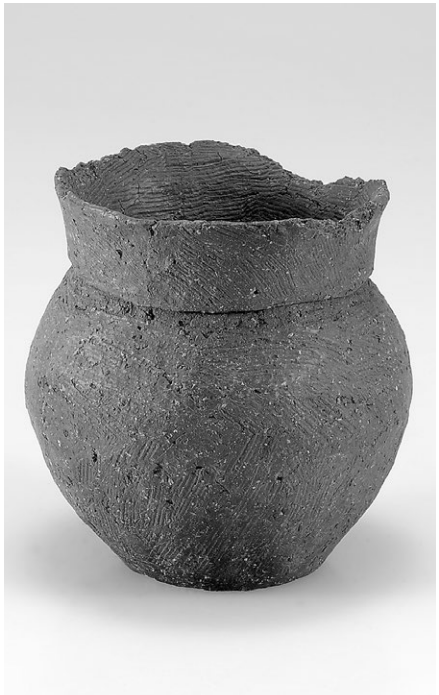
SM01－9

SX01－2

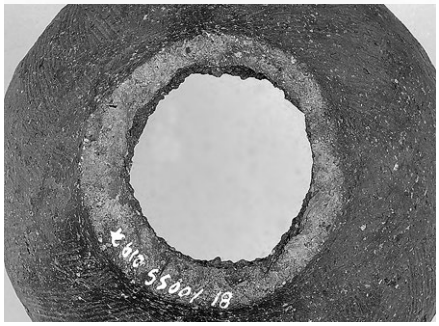
SM01－10

SM01－11

SX01－3



遺跡一括－6

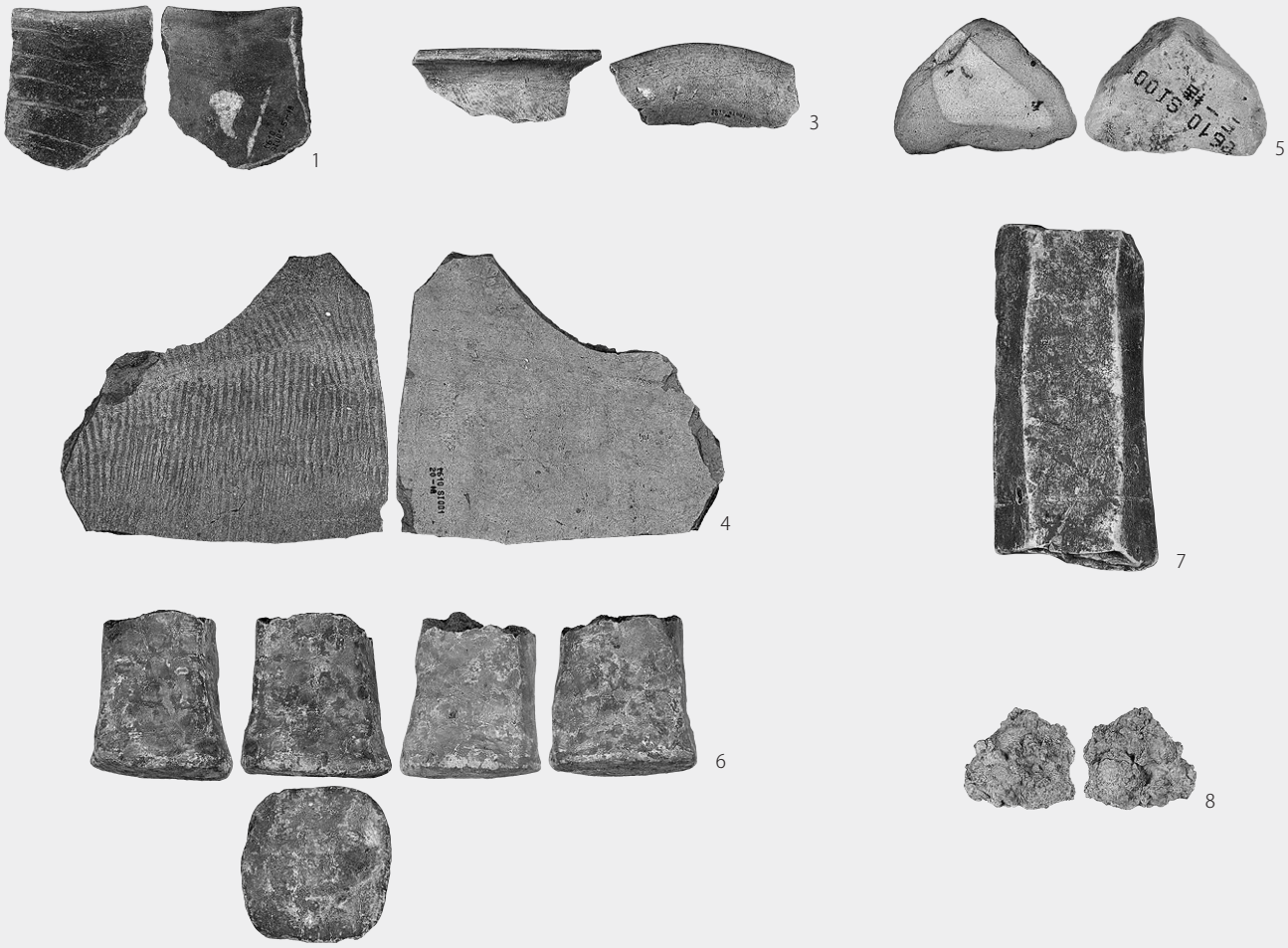


SM01－12

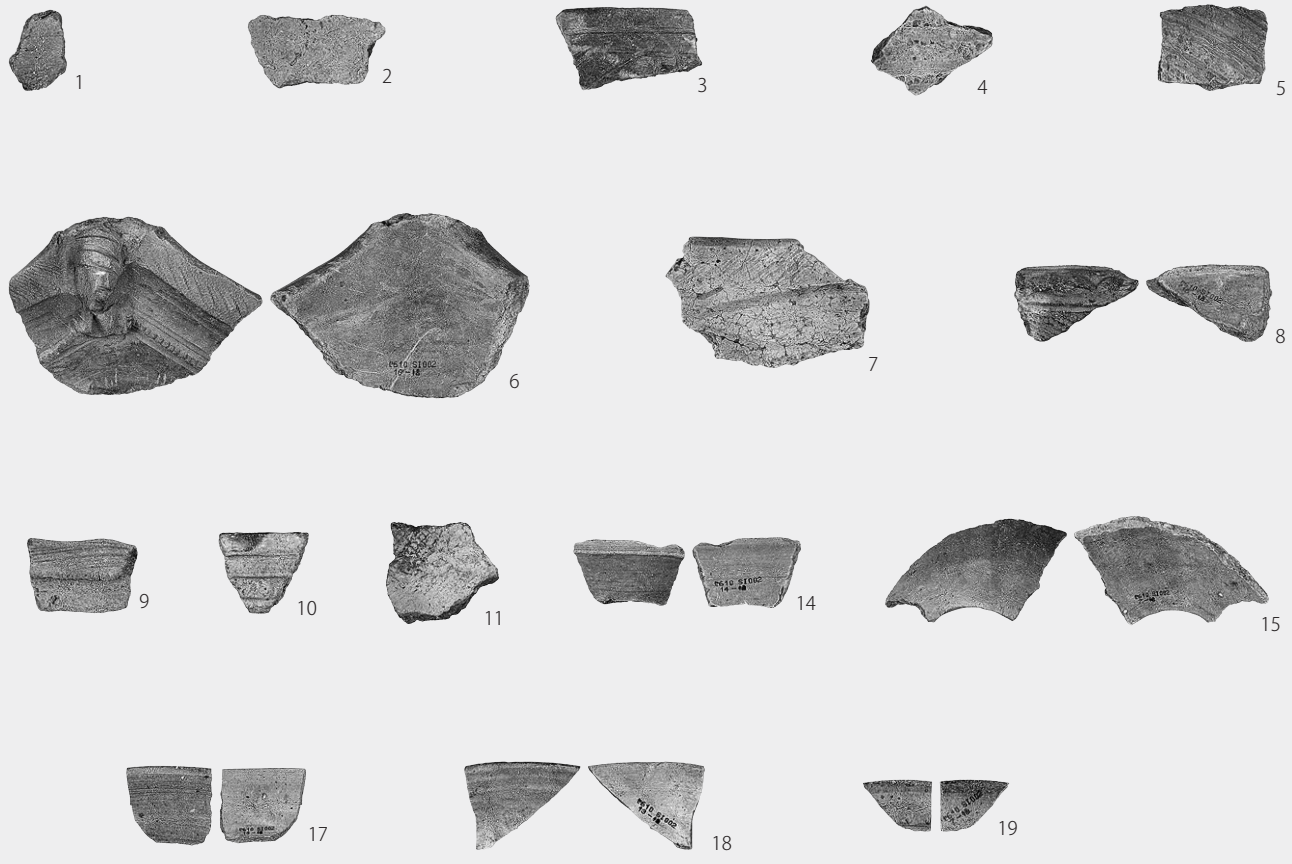
SM01－13

遺跡一括－7

SI01

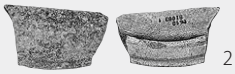


SI02



SI03

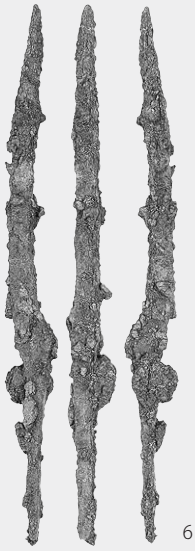
1


2

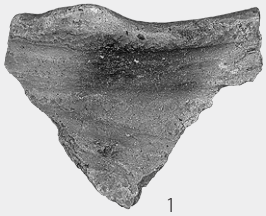
4

3

5


6

SI04


1

2

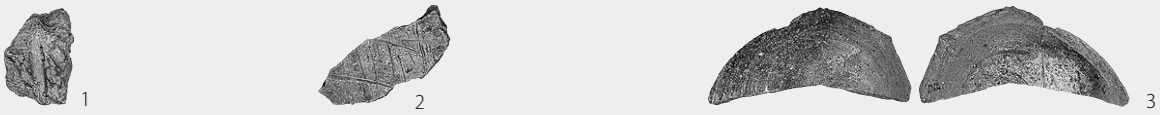
3

4

5

6

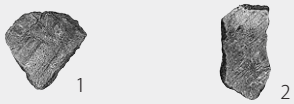
SB02-P6



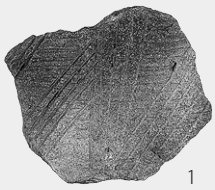
SB02-P4

SB02-P3

SM01



SX01



SK01

SK06

Pit01

遺跡一括

報　告　書　抄　録

ふりがな	いちはらしあねさきだいいせき（だいにちてん）
書　名	市原市姉崎台遺跡（第２地点）
副書名	
巻　次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第 63 集
編著者名	川上知哉
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒 290－0011　千葉県市原市能満 1489 番地　TEL 0436（41）9000
発行年月日	2024 年（令和 6 年）3 月 18 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
あねさきだいいせき 姉崎台遺跡 （だいにちてん） （第２地点）	ちばけんいちはらしあねさきあざだいはた 千葉県市原市姉崎字台畑 2922 番地 1・2923 番地 1	12219	330	35° 28′ 19″	140° 03′ 04″	20230705 ～ 20230809	205.49	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
姉崎台遺跡 （第２地点）	包蔵地、 集落跡	古墳時代、 奈良時代、 平安時代	古墳時代前期方墳周溝 1 基、古墳時代終末期竪穴建物跡 1 棟、奈良時代竪穴建物跡 1 棟・掘立柱建物跡 2 棟、奈良・平安時代竪穴建物跡 2 棟、時期不明竪穴建物跡 1 棟・遺物集中土坑 1 基・土坑 9 基・ピット 2 基	縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器・須恵器・土製品・鉄器、奈良時代土師器・須恵器・砥石、中世陶器	古墳時代終末期～奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡・掘立柱建物跡が出土した。また古墳時代前期の方墳周溝を検出した。

要　約	姉崎台遺跡（第２地点）は姉崎台地北辺部、標高約 37 m前後の東西方向に長いＴ字形横線部状の台地平坦面に位置している。調査の結果、古墳時代前期の方墳周溝 1 基や古墳時代終末期～奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡・掘立柱建物跡計 7 棟などを検出した。古墳時代前期～後期には居住域は稀薄化し、周辺遺跡の傾向と同じく、台地北辺部一帯が主に墓域として利用されていたことを示唆している。また、古墳時代終末期以降には、駿東型甕や静岡以西由来と思われる鉄鋲が発見され、東京湾以西との交流を窺える。特に後者の遺物は県内初の事例の可能性がある。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第63集

市原市姉崎台遺跡（第２地点）

令和 6 年 3 月 18 日　発行

編　集　市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436（41）9000

発　行　小川長二
市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436（22）1111

印　刷　株式会社　弘　文　社
千葉県市川市市川南2−7−2
TEL 047（324）5977